

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 心理学方法論I  |
| 科目番号               | OATB011  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 1 年次   |
| 時間割                | 春AB 火1,2   |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | 心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。<br>研究者としての研究倫理、人を対象とする研究における研究倫理の重要性をふくめた講義を行う。  |
| 備考                 | 対面   |
| 授業方法               | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力 2. マネジメント力 3. コミュニケーション能力 4. チームワーク力<br>専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 心理的測定から解析に至る心理学の方法論(心理学的測定・調査・実験観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。   |
| 授業計画               | 主に心理学の基礎的方法論を取り上げて検討する<br>第1回 4月16日(火) ガイダンス(学位Pリーダー), 研究倫理教育, Infoss & APRIN(CITI-Japan)の概説と受講案内(特任助教)<br>第2回 4月23日(火) 心理臨床における実践的仮説生成研究法 (濱口)<br>第3回 4月30日(火) 青年心理学研究の方法論ー青年心理学的な研究とは何か, 青年心理学研究の具体例(佐藤)<br>第4回 5月14日(火) 研究倫理申請書の書き方 Infoss & CITI-Japan受講確認 (研究倫理委員:千島)<br>第5回 5月18日(土) 13:00~15:30 英語論文を書く1 (Terry Joyce) Zoomによるオンライン双方向<br>5月15日(水) 修士論文第1次指導会<br>第6回 5月28日(火) 新しい統計結果の表記方法 (藤田)<br>第7回 6月4日(火) 縦断データの収集と分析・Qualtricsの活用法(千島)<br>第8回 6月11日(火) 構造方程式モデリングの基礎(山口)<br>第9回 6月 18日(火) システマティック・レビュー(菅原)<br>第10回6月22日(土)13:00 17:30英語論文を書く Terry Joyce Zoomによるオンライン双方向<br>* 5月7日(火)は月曜授業のため方法論 の授業はなし<br>* 5月21日(火)の分は5月18日(土)に実施<br>* 6月25日(火)の分は6月22日(土)に実施<br>* manabaの自己登録キーは「4582188」です。TWINSに科目履修登録すると自動的にmanabaに登録されますが、履修登録完了前にmanabaコンテンツの閲覧の必要がある場合、各自で自己登録してください。<br>* 各回の資料は,manabaのコンテンツにアップロードするので各自でダウンロードして使用してください。紙媒体での提供は行いません。1週間の閲覧期間を確保します。<br>* 各回の出席はmanabaのResponのアンケート機能を使用して把握します。Responのアン |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 授業計画                            | <p>ケート内には小課題が課されるので、これにも必ず期限内に回答してください。</p> <p>* 期末課題は一つの講義を選んでレポート課題を提出してください。</p> <p>【オンラインの際の受講】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は基本的には対面で実施しますが、非常勤講師による第5回・第10回はオンライン同時双方向で実施します。</li> <li>・第5回と第10回のオンライン双方向はZoomで行います。URLは後にmanabaでお知らせします</li> </ul>                                       |
| 履修条件                            | 心理学学位プログラムの正規生であること  |
| 成績評価方法                          | <p>開講されたすべての授業時間数(休講となった時間数は除く)の60%以上の出席が必須。</p> <p>A+~Dの評点は 各回のRespon内の小課題(6,7回はなし)と期末レポートに対する評価に基づいて行う。各回の小課題とレポートの評価に占める比率は1対2とする。</p> <p>成績評価基準は下記のとおりである。</p> <p>A+ : 到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている</p> <p>A : 到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</p> <p>B : 到達目標を達成している</p> <p>C : 到達目標を最低限達成している</p> <p>D : 到達目標を達成していない</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>講義(100%)</p> <p>各回の講義で紹介される関連する研究論文・書籍などをよく読んで学びを深めてください。</p> <p>大学設置基準により、2単位分の科目の修学には、授業時間を含め、90時間の学修が求められています。</p>   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 各回,資料を配布し,それに沿って進める。指定する教科書はない。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | 教員により異なる   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 研究のアイデアを豊かにすること  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 研究倫理 仮説生成研究法 質問紙調査法 実験法 心理統計 ICT 脳神経科学 薬理 遺伝ホルモン 英語論文  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 心理学方法論II  |
| 科目番号               | OATB012   |
| 単位数                | 2.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1 年次  |
| 時間割                | 秋AB 火1,2  |
| 担当教員               | 濱口 佳和   |
| 授業概要               | 心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。<br>この講義の一環として修士論文の中間発表会、最終口答試問の聴講も行う。   |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法               | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力 2. マネジメント力 3. コミュニケーション能力 4. チームワーク力<br>専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 心理的測定から解析に至る心理学の方法論(心理学的測定・調査・実験観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。  |
| 授業計画               | 第1回 10月 1日(火) 心理尺度の作成(外山)<br>第2回 10月8日(火) ICTを用いた心理学研究法(提示刺激制御,映像解析)(大山)<br>第3回 10月 15日(火) 面接法によるデータ収集と分析(松田侑子)<br>10月 18日(水)修士論文第2次指導会<br>第4回 10月22日(火) 未定(浅野)<br>第5回 10月29日(火) 単一事例研究計画法・生理計測・行動計測(松田)<br>第6回 11月12日(火) 社会心理学の実験法(川上)<br>第7回 11月 19日(火) 心の健康教育のプログラム開発と効果検証の方法(生田目)<br>第8回 12月3日(火) 脳神経科学と薬理に関する研究法(山田一夫) オンデマンド方式<br>第9回 12月 10日(火) ニューロイメージング計測法の原理(綾部早穂) オンデマンド<br>第10回 12月17日(火) 遺伝とホルモンに関する研究法(高橋阿貴) オンデマンド方式<br>1月17日(水) 修士論文最終審査会<br>* 11月7日(火)は月曜授業, 11月28日(火)は授業なし<br><br>* manabaの自己登録キーは「3508171」です。TWINSで科目理輔登録をすれば自動的にmanabaに登録されますが、科目履修登録以前に必要な場合は自己登録をしてください。<br>* 各回の資料は,manabaのコンテンツへにアップロードするので各自でダウンロードして使用すること。紙媒体での提供は行わない。動画同様1週間の閲覧期間を確保する。ダウンロード可とする。<br>* 各回の出席はmanabaのResponのアンケート機能を使用して把握する。Responのアンケート内には小課題が課されるので、これにも必ず期限内に回答すること(8・9・10の3回はなし)<br>* 期末課題は一つの講義を選んでレポート課題を提出する<br>【オンラインの際の受講】<br>・この授業は基本的には対面で実施しますが、学内の副担当教員による第7回・8回・9回はオンデマンドで実施します。 |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 授業計画                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第7回・8回・9回のオンデマンド配信の動画はTeamsで公開範囲を限定したうえで,MS Streamで配信し,URLはmanabaに掲載します。</li> <li>・ Teamsのチーム名は「OATB012心理学方法論 (秋AB火曜1・2時限)」チームコードは「66jpehk」各自でメンバー登録してください</li> <li>・ 動画は1週間の閲覧期間を確保する</li> </ul>   |
| 履修条件                            | 原則的に心理学学位プログラムの正規生であること  |
| 成績評価方法                          | <p>単位取得の最低条件として,開講されたすべての授業時間数(休講となった時間数は除く)の60%以上への出席が必須。</p> <p>A+~Dの評価は各回の小課題と期末課題対して行われる。</p> <p>小課題と期末課題の評価に占める割合は1:2である。</p> <p>成績評価基準は下記のとおりである。</p> <p>A+: 到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている</p> <p>A: 到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</p> <p>B: 到達目標を達成している</p> <p>C: 到達目標を最低限達成している</p> <p>D: 到達目標を達成していない</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>講義(100%)</p> <p>各回の講義で紹介される関連論文や書籍をよく読んで理解を深めること</p> <p>2単位の授業科目は、講義時間を含め90時間の学修を必要としています。</p>  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 各回,資料を配布し,それに沿って進める。指定する教科書はない。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | 教員によって異なる  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 研究のアイデアを豊かにすること  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 心理尺度 生理計測 行動計測 対人関係 心理検査法 言語プロトコル分析 認知行動療法 ニューロイメージング, 行動の直接観察   |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 心理学特別研究A  |
| 科目番号               | OATB021   |
| 単位数                | 2.0 単位  |
| 標準履修年次             | 2 年次  |
| 時間割                | 春ABC 随時   |
| 担当教員               | 濱口 佳和   |
| 授業概要               | 修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。<br>論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。博士前期課程1年目春学期に実施する。5月に実施される修士論文構想発表の事前事後指導を中心に指導を行う。   |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法               | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 1.各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし,その上で未解決の問題を取り上げることができる<br>2.綿密な研究計画を立案し,習得した心理学的方法論を使用し的確なデータの収集と分析を行うことができる<br>3.得られた研究成果を実証的な研究としてまとめることができる   |
| 授業計画               | 詳細は指導教員によって異なるが,標準的には下記の内容から構成される<br>第1回 研究テーマの選定<br>第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読<br>第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索<br>第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー<br>第5回 システムティックレビューの中間報告<br>第6回 システムティックレビューの結果報告<br>第7回 研究目的の絞り込み<br>第8回 全体的な研究計画の立案<br>第9回 仮説の導出<br>第10回 データ収集の方法の検討<br>上記に加え,随時,修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる<br>対面(オンライン併用型) |
| 履修条件               | 心理学学位プログラム正規生で今年度修士論文提出予定の者   |
| 成績評価方法             | 遂行中の修士論文の研究の進捗状況について以下の観点から評価する<br>1.テーマ設定の学術的・社会的意義<br>2.研究テーマ・研究目的設定の明確さ<br>3.研究テーマ・研究目的の独自性<br>4.理論的検討,先行研究のレビューの網羅性<br>5.研究計画全体のまとめり<br>6.研究方法の適合性など<br>上記の観点を踏まえ,学期末における修士論文の研究の状態について、A+ , A , B , C , D の5段階で評価する<br>A+ : 到達目標を達成し,きわめて優秀である<br>A : 到達目標を達成し, 優秀である  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 成績評価方法                          | B：到達目標を達成している<br>C：到達目標を最低限達成している<br>D：到達目標を達成していない                          |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特に決まったものは使用しない   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | 各指導教員のオフィスアワーに対応する   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 修士論文 研究テーマの設定 研究計画の立案 研究計画の実行 データ収集・分析 論文作成                                  |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 心理学特別研究B   |
| 科目番号               | OATB022  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 2 年次   |
| 時間割                | 秋ABC 随時  |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | <p>修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。</p> <p>博士前期課程1年目秋学期に実施する。修士論文の提出まで、ならびに最終口答試問のための指導を中心に行う。</p>   |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法               | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <p>1.汎用コンピテンス<br/>知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力</p> <p>2.専門コンピテンス<br/>心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力</p>  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | <p>1.各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げることができる</p> <p>2.綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用し的確なデータの収集と分析を行うことができる</p> <p>3.得られた研究成果を実証的な研究としてまとめることができる</p>   |
| 授業計画               | <p>特別研究Aを春学期に受講できなかった者に対しては下記の通り</p> <p>ただし、詳細は指導教員によって異なるが、標準的には下記の内容から構成される</p> <p>第1回 研究テーマの選定</p> <p>第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読</p> <p>第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索</p> <p>第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー</p> <p>第5回 システムティックレビューの中間報告</p> <p>第6回 システムティックレビューの結果報告</p> <p>第7回 研究目的の絞り込み</p> <p>第8回 全体的な研究計画の立案</p> <p>第9回 仮説の導出</p> <p>第10回 データ収集の方法の検討</p> <p>上記に加え、随時、第修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる</p> <p>秋ABに特別研究Bを履修できなかった人対象</p> <p>各教員がそれぞれの指導学生に個別に示すが標準的に以下の内容が含まれる</p> <p>第1回 研究方法の検討</p> <p>第2回 データ収集の準備</p> <p>第3回 データ収集過程のモニター</p> <p>第4回 データのコーディング、入力</p> <p>第5回 データ分析方法の検討</p> <p>第6回 データ分析の実際の指導</p> <p>第7回 データ分析結果の解釈</p> <p>第8回 分析結果のまとめ方の指導</p> |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 授業計画                            | <p>第9回 結果についての考察の指導</p> <p>第10回 論文全体のチェック</p> <p>上記に加え，修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う</p> <p>対面（オンライン併用型）</p>  |
| 履修条件                            | 心理学学位プログラム正規生で今年度修士論文提出予定の者  |
| 成績評価方法                          | <p>第1回 研究方法の検討</p> <p>第2回 データ収集の準備</p> <p>第3回 データ収集過程のモニター</p> <p>第4回 データのコーディング，入力</p> <p>第5回 データ分析方法の検討</p> <p>第6回 データ分析の実際の指導</p> <p>第7回 データ分析結果の解釈</p> <p>第8回 分析結果のまとめ方の指導</p> <p>第9回 結果についての考察の指導</p> <p>第10回 論文全体のチェック</p> <p>上記に加え，修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う</p> <p>上記をすべて行ったうえで、学期末における修士論文の研究の状態について、A+，A，B，C，Dの5段階で評価する</p> <p>A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である</p> <p>A：到達目標を達成し、優秀である</p> <p>B：到達目標を達成している</p> <p>C:到達目標を最低限達成している</p> <p>D：到達目標を達成していない</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く。</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。</p>  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特に決まったものは使用しない   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 修士論文 研究テーマの設定 研究計画の立案 研究計画の実行 データ収集・分析 論文作成  |



|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 心理学特別研究S   |
| 科目番号               | OATB023  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 2 年次   |
| 時間割                | 通年 応談  |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | 修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。留学、休学などの個人的事情により、心理学特別研究AないしBが履修できない学生について、博士前期課程2年目以後に心理学特別研究AないしBの代替科目として特に学位プログラム教育会議から許可を得た者を対象として実施する。  |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法               | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 1.各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げることができる<br>2.綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用し的確なデータの収集と分析を行うことができる<br>3.得られた研究成果を実証的な研究としてまとめることができる  |
| 授業計画               | 特別研究Aを春学期に受講できなかった者に対しては下記の通り<br>第1回 研究テーマの選定<br>第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読<br>第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索<br>第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー<br>第5回 システムティックレビューの中間報告<br>第6回 システムティックレビューの結果報告<br>第7回 研究目的の絞り込み<br>第8回 全体的な研究計画の立案<br>第9回 仮説の導出<br>第10回 データ収集の方法の検討<br>上記に加え、随時、第修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる<br><br>秋ABに特別研究Bを履修できなかった人対象<br>各教員がそれぞれの指導学生に個別に示すが標準的に以下の内容が含まれる<br>第1回 研究方法の検討<br>第2回 データ収集の準備<br>第3回 データ収集過程のモニター<br>第4回 データのコーディング、入力<br>第5回 データ分析方法の検討<br>第6回 データ分析の実際の指導<br>第7回 データ分析結果の解釈<br>第8回 分析結果のまとめ方の指導 |

|        |   |
|--------|---|
| 授業計画   | <p>第9回 結果についての考察の指導</p> <p>第10回 論文全体のチェック</p> <p>上記に加え，修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う</p>   |
| 履修条件   | <p>特別の事情・目的がある場合に、学位プログラムリーダーの承認を得て、心理学特別研究A,心理学特別研究Bに代えて履修する</p>   |
| 成績評価方法 | <p>特別研究Aを春学期に受講できなかった者に対しては下記の通り</p> <p>第1回 研究テーマの選定</p> <p>第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読</p> <p>第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索</p> <p>第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー</p> <p>第5回 システムティックレビューの中間報告</p> <p>第6回 システムティックレビューの結果報告</p> <p>第7回 研究目的の絞り込み</p> <p>第8回 全体的な研究計画の立案</p> <p>第9回 仮説の導出</p> <p>第10回 データ収集の方法の検討</p> <p>上記に加え，随時，第修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる</p> <p>以上をすべて行ったうえで、学期末における修士論文の研究の状態について、A+，A，B，C，Dの5段階で評価する</p> <p>A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である</p> <p>A：到達目標を達成し、優秀である</p> <p>B：到達目標を達成している</p> <p>C:到達目標を最低限達成している</p> <p>D：到達目標を達成していない</p> <p>秋ABに特別研究Bを履修できなかった人対象</p> <p>第1回 研究方法の検討</p> <p>第2回 データ収集の準備</p> <p>第3回 データ収集過程のモニター</p> <p>第4回 データのコーディング，入力</p> <p>第5回 データ分析方法の検討</p> <p>第6回 データ分析の実際の指導</p> <p>第7回 データ分析結果の解釈</p> <p>第8回 分析結果のまとめ方の指導</p> <p>第9回 結果についての考察の指導</p> <p>第10回 論文全体のチェック</p> <p>上記に加え，修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う</p> <p>以上をすべて行ったうえで、学期末における修士論文の研究の状態について、A+，A，B，C，Dの5段階で評価する</p> <p>A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である</p> <p>A：到達目標を達成し、優秀である</p> <p>B：到達目標を達成している</p> <p>C:到達目標を最低限達成している</p> |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 成績評価方法                          | D：到達目標を達成していない   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特に決まったものは使用しない   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 修士論文 研究テーマの設定 研究計画の立案 研究計画の実行 データ収集・分析 論文作成                                  |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 心理学先端研究1   |
| 科目番号                    | OATB031  |
| 単位数                     | 1.0 単位   |
| 標準履修年次                  | 1・2 年次   |
| 時間割                     | 春季休業中 集中   |
| 担当教員                    | 村上 達也, 外山 美樹, 千島 雄太  |
| 授業概要                    | 心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。  |
| 備考                      | 西暦偶数年度開講。<br>対面  |
| 授業方法                    | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | 1. 汎用コンピテンス<br>知の活用力, 国際性<br>2. 専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力  |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 1. 認知・知覚, 教育・社会・発達, 臨床等の心理学領域の特定のトピックスについて, 主要な理論と方法論, 並びに実証された知見を説明できるようになる。<br>2. 上記1によって得られた知識を現代社会が直面する特定の問題に適用し, 心理学的な観点から問題解決について具体的な提言ができるようになる。  |
| 授業計画                    | 特定のトピックスについての深い専門性を持つ国内の研究者を非常勤講師として招き、5コマから成る講義と討論を行い<br>2日間、10コマ(1コマ75分)の授業計画である。<br>1日目 5コマに渡り、特定トピックについての方法論、概念、理論、実証的研究、支持された仮説などについての講義と質疑応答を行う<br>2日目 講師の与えた課題に取り組み、学びをさらに進化させて課題を提出する。<br>最後は課題に対して担当教員からのコメントを受け取る。<br>第1回：最新の心理学研究に関する基礎研究の紹介<br>第2回：最新の心理学研究に関する応用研究の紹介<br>第3回：最新の心理学研究に関する論文購読<br>第4回：最新の心理学研究に関するディスカッション<br>第5回：最新の心理学研究に関する研究のまとめ |
| 履修条件                    |  |
| 成績評価方法                  | レポート(100%)   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 講師が指定した教科書や論文に事前に読んでおくこと<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。  |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 各講師が指定した教科書や論文を参照すること  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         |  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) |  |

|   |  |
|---|--|
| 他の授業科目との関連                              |  |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |  |
| キーワード                                   | 認知心理学、感覚知覚心理学、教育心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学、方法論、理論、エビデンス |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 心理学先端研究2  |
| 科目番号                   | OATB032   |
| 単位数                    | 1.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次  |
| 時間割                    | 夏季休業中 集中  |
| 担当教員                   | 菅原 大地, 松田 侑子, 松本 昇  |
| 授業概要                   | 心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。<br>主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、現在の研究展開の在り方に関する世界的動向を、講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。   |
| 備考                     | 西暦奇数年度開講。<br>対面   |
| 授業方法                   | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1. 汎用コンピテンス<br>知の活用力, 国際性<br>2. 専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 1. 認知・知覚, 教育・社会・発達, 臨床等の心理学領域の特定のトピックスについて, 主要な理論と方法論、並びに実証された知見を説明できるようになる。<br>2. 上記1によって得られた知識を現代社会が直面する特定の問題に適用し, 心理学的な観点から問題解決について具体的な提言ができるようになる。  |
| 授業計画                   | 特定のトピックスについての深い専門性を持つ国内の研究者を非常勤講師として招き、5コマから成る講義と討論を行い<br>2日間、10コマ(1コマ75分)の授業計画である。<br>1日目 5コマに渡り, 特定トピックについての方法論、概念、理論、実証的研究、支持された仮説などについての講義と質疑応答を行う<br>2日目 講師の与えた課題に取り組み, 学びをさらに進化させて課題を提出する。<br>最後は課題に対して担当教員からのコメントを受け取る。<br><br>第1回: 最新の心理学研究に関する基礎研究の紹介<br>第2回: 最新の心理学研究に関する応用研究の紹介<br>第3回: 最新の心理学研究に関する論文購読<br>第4回: 最新の心理学研究に関するディスカッション<br>第5回: 最新の心理学研究に関する研究のまとめ |
| 履修条件                   |   |
| 成績評価方法                 | レポート(100%)  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 講師から指定した教科書や論文に事前に読んでおくこと<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 各講師が指定した教科書や論文を参照すること   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)        | 各回の世話人に連絡をしてください<br>菅原 大地   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)  |   |

|   |  |
|---|--|
| 点等)                                     |  |
| 他の授業科目との関連                              |  |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |  |
| キーワード                                   | 認知心理学、感覚知覚心理学、教育心理学。社会心理学、発達心理学、臨床心理学、方法論、理論、エビデンス |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 心理学キャリア形成   |
| 科目番号               | OATB041   |
| 単位数                | 1.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1・2 年次  |
| 時間割                | 春季休業中 集中  |
| 担当教員               |   |
| 授業概要               | 心理学の専門性を活かした職業について具体的に理解をし、主体的に考えることを目的とした高度専門職行事のためのキャリア育成科目である、国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職として最先端で活躍する講師を招き、その講義を聴き議論をすることにより、将来の進路決定に役立てると共に、心理学という研究領域とその社会との関連性についての考察を深める。  |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法               | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <p>知の活用力</p> <p>マネージメント能力</p> <p>コミュニケーション能力</p> <p>チームワーク力</p> <p>心理学的情報発信力</p> <p>多領域間コミュニケーション能力</p>   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 心理学の専門性を活かした職業について具体的に理解し、自らのキャリア形成について主体的に考えることができる。   |
| 授業計画               | <p>(2023.2.24)本科目は外部講師による集中授業であり、詳細については決定次第、加筆・修正を行う。</p> <p>第1回 心理学の学びとキャリア形成</p> <p>第2回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー仕事紹介ー</p> <p>第3回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー必要とされるコンピテンスー</p> <p>第4回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー大学院在学中にやっておきたいことー</p> <p>第5回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ーその職業の将来展望</p> <p>第6回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー仕事紹介ー</p> <p>第7回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー必要とされるコンピテンスー</p> <p>第8回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー大学院在学中にやっておきたいことー</p> <p>第9回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ーその職業の将来展望</p> <p>第10回 まとめ</p> |
| 履修条件               |   |
| 成績評価方法             | <p>受講生の発言, 討論への参加の積極性(60%)、講師の課したレポート(40%)による評価。評価基準はこの授業の目標への到達度により、以下の5段階により評価する</p> <p>A+: 到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている</p> <p>A: 到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</p> <p>B: 到達目標を達成している</p> <p>C: 到達目標を最低限達成している</p> <p>D: 到達目標を達成していない</p>   |
| 学修時間の割り当て及         | 取り上げられた職業についてさらに詳しく調べること。その職業に就くために必要な資   |



|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| び授業外における学修方法                    | <p>格があれば、その資格について調べること。</p> <p>自分のキャリアの一環としてその職業に就くことについて考えること。</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。</p> |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特になし   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | オフィスアワーは特に定めないが、世話人教員へメールで連絡して調整すること。  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 履修に関する掲示・連絡に注意すること。  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） | なし   |
| キーワード                           | 心理学，職業，キャリア形成  |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 心理学インターンシップ  |
| 科目番号               | OATB042  |
| 単位数                | 1.0 単位   |
| 標準履修年次             | 1・2 年次   |
| 時間割                | 通年 応談  |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | <p>心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。</p> <p>国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図る。同時に、将来の進路決定に役立つ体験としても位置づける。</p>  |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法               | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <p>1.汎用コンピテンス<br/>知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力</p> <p>2.専門コンピテンス<br/>心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力</p>  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | <p>1.民間企業・団体・地方自治体などで行われる就労体験んを、理学の学修・研究の一環として位置づけることができる。</p> <p>2.受講生が自らのキャリアを具体的に考えられるようになる</p> <p>3.心理学と社会の関係性について自ら主体的に学ぶ姿勢が身につく</p>  |
| 授業計画               | <p>インターンシップゆえに、以下の手続きに則って手続きを行い、インターンシップに参加し、レポートとその評価をもって単位としてみなす。</p> <p>1.参加するインターンシップに関する情報を収集する。</p> <p>2.事前指導:インターンシップの内容について、指導教員に説明し、指導教員との討論を経て、各受講生の心理学研究との関係を明確化する。</p> <p>3.「心理学インターンシップ」の要件を満たすことの承認を指導教員から得る。</p> <p>4.日程,場所,活動内容についての情報と共に,実習先機関からの正規の案内状,参加を承諾する書式を心理学学位プログラム事務室(心理・心理学専攻事務室)に提出。</p> <p>5.心理学学位プログラム(心理・心理学専攻)教育会議で「心理学インターンシップ」としての要件を満たすことの承認を得る。</p> <p>6.「心理学インターンシップ」の科目履修登録を行う。</p> <p>7.インターンシップに参加する。</p> <p>8.実習報告書を指導教員に提出(実習先からの活動証明又は評価書を添付)。</p> <p>9.事後指導:報告書に基づいて,インターンシップでの経験が受講生の心理学研究・学修にとってどのような意義があったかについて討論し,明確化する。</p> <p>10.指導教員は心理学位プログラム(心理・心理学専攻)教育会議において単位認定の承認を得て,評価する。</p> |
| 履修条件               | <p>1.本科目で対象となるインターンシップは,概ね 1 週間(4ないし 5 営業日)以上の活動への参加を必要とするものであり,その内容が,心理学と関係性が強く,その教育・研究上の効果,有効性が,指導教員によって認められていることを前提とする。</p> <p>また,受講生が自らインターンシップ参加の手続きを取り,実習機関から認められていることを前提とする。</p> <p>2.科目履修を希望する者は,自分自身が参加するインターンシップに関する情報をあらかじめ指導教員を通じて申請し,専攻教育会議において「授業対象」としてのインターンシップとなるか否かについての承認を得ること。</p>  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 履修条件                            | <p>その際、インターンシップに参加する日程、場所、活動内容 についての情報と共に、実習先機関からの正規の案内状、参加を承諾する書式などを添付して提出すること。提出には、指導教員による承認を必要とする。</p> <p>これらの提出された情報を元に、専攻教育会議において「心理学インターンシップ」としての 教育上の利点が十分に得られると考えられる場合に履修が認められる。</p>  |
| 成績評価方法                          | <p>受講生は、インターンシップ終了後にインターンシップ実習報告書を指導教員に提出し、その承認を得て科目担当者(学位プログラムリーダー)が単位を認定する。</p> <p>報告書には、インターンシップ実習での 活動内容、ならびに、その心理専攻における教育との関連性について概要をまとめる。</p> <p>可能であれば、実習先機関からの活動証明あるいは評価書を添えて提出する。成績の評価は活動に関する報告書(レポート)と実習先機関による評価書により評価する。成績に反映させる比率は1:1</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>受講生自身が見出したインターンシップの実習に基づき、指導教員からの事前・事後 指導の中で、各受講生にとっての心理学の研究と関係付けていくこと</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。</p>  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特に使用しない   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 |   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 自分自身の心理学研究・学修の目的に合致したインターンシップに、主体的に参加する   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 民間企業, 団体, 地方自治体 実地の就労体験 キャリア形成  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名                           | 心理基礎科学演習I   |
| 科目番号                            | OATB051   |
| 単位数                             | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                          | 1 年次  |
| 時間割                             | 春AB 水3,4  |
| 担当教員                            | 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大  |
| 授業概要                            | 心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目春学期に実施するため、特に研究計画を立て、実施の準備を行っていくまでを中心に指導を行う。   |
| 備考                              | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                            | 演習  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用コンピテンス</li> <li>1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力</li> <li>・専門コンピテンス</li> <li>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力</li> </ul>  |
| 授業の到達目標(学修成果)                   | 専攻する研究領域の修士論文作成に関して、テーマ決定、研究方法、論文作成に必要な情報の収集法、論文の批判的読解法を修得する。   |
| 授業計画                            | 各専門領域の教員が、各学生の研究テーマに即して指導を行う。   |
| 履修条件                            | 心理学位プログラムの正規生であること。   |
| 成績評価方法                          | 各専門領域の教員が、各学生の研究への取り組みの状態に応じて評価する。(100%)  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>自らの研究テーマやそれに関連するテーマを扱っている先行研究、研究論文を検索し、講読する。</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。</p>  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | <p>オフィスアワーは教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。</p> <p>佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp<br/>         大山 潤爾<br/>         外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp<br/>         千島 雄太<br/>         松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp<br/> <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a><br/>         山口 一大 木曜13:00~14:00<br/>         人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         |   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年心理学 対人心理学  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名                           | 心理基礎科学演習II  |
| 科目番号                            | OATB052   |
| 単位数                             | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                          | 1 年次  |
| 時間割                             | 秋AB 水3,4  |
| 担当教員                            | 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大  |
| 授業概要                            | 心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目秋学期に実施するため、特に自らの研究計画に基づきながら、研究導入とその際に必要な技能・知識の獲得方法を中心に指導を行う。   |
| 備考                              | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                            | 演習  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係              | ・汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力<br>・専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力  |
| 授業の到達目標(学修成果)                   | 専攻する研究領域の修士論文作成に関して、テーマ決定、研究方法、論文作成に必要な情報の収集法、論文の批判的読解法を修得する。   |
| 授業計画                            | 各専門領域の教員が、各学生の研究テーマを発展させるよう指導を行う。   |
| 履修条件                            | 心理学学位プログラムの正規生であること。  |
| 成績評価方法                          | 各専門領域の教員が、各学生の研究への取り組みの状態に応じて評価する。(100%)  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 自らの研究テーマやそれに関連するテーマを扱っている先行研究、研究論文を検索し、講読しておく。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | オフィスアワーは各教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。<br>佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp<br>大山 潤爾<br>外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp<br>千島 雄太<br>松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp<br><a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a><br>山口 一大 木曜13:00~14:00<br>人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         |   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年心理学 対人心理学  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 授業科目名                           | 心理基礎科学演習III  |
| 科目番号                            | OATB053  |
| 単位数                             | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                          | 2 年次   |
| 時間割                             | 春AB 水3,4   |
| 担当教員                            | 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大   |
| 授業概要                            | 心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目春学期に実施するため、特に実際の研究を実施していきながら、その方法論や分析を自らモニターしていく方法とその際に必要とされる知識・技能の獲得の方法を中心に指導を行う。  |
| 備考                              | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                            | 演習   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用コンピテンス</li> <li>1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力</li> <li>・専門コンピテンス</li> <li>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力</li> </ul>   |
| 授業の到達目標(学修成果)                   | 自らの修士論文作成に関して、研究テーマの意義を深め、研究テーマを研究する具体的な方法論について修得する。   |
| 授業計画                            | 各専門領域の教員が、各学生の研究テーマを発展させ、深化させるよう指導を行う。   |
| 履修条件                            | 心理学学位プログラムの正規生であること。   |
| 成績評価方法                          | 各専門領域の教員が、各学生の研究テーマへの取り組みの状態に応じて評価する。(100%)  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 自らの研究テーマに即した研究計画を立て、研究計画に則ったデータの収集を繰り返す行う。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | <p>オフィスアワーは各教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。</p> <p>佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp<br/>         大山 潤爾<br/>         外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp<br/>         千島 雄太<br/>         松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp<br/> <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a><br/>         山口 一大 木曜13:00~14:00<br/>         人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年  |

キーワード

心理学 対人心理学

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名                           | 心理基礎科学演習Ⅳ   |
| 科目番号                            | OATB054   |
| 単位数                             | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                          | 2 年次  |
| 時間割                             | 秋AB 水3,4  |
| 担当教員                            | 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大  |
| 授業概要                            | 心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目秋学期に実施するため、特に研究計画に基づきながら、実施した研究成果をどのように整理をし、一つの論文としてまとめ上げていくかについて、具体的な指導を行う。   |
| 備考                              | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                            | 演習  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係              | ・汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力<br>・専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力  |
| 授業の到達目標(学修成果)                   | 自らの研究テーマを実証する方法論に即して収集したデータの分析を進め、研究テーマを実証する論拠を組み立てて、それらを修士論文としてまとめ上げる。   |
| 授業計画                            | 各専門領域の教員が、各学生の研究テーマをデータに基づいて実証できるよう指導を行う。   |
| 履修条件                            | 心理学学位プログラムの正規生であること。  |
| 成績評価方法                          | 各専門領域の教員が、各学生の研究テーマへの取り組みの状態に応じて評価する。<br>(100%)   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 自らの研究テーマの実証に向けて、自ら収集したデータの解析を行い、研究テーマを実証する論拠を組み立てて、修士論文として文章化する。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | オフィスアワーは各教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。<br>佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp<br>大山 潤爾<br>外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp<br>千島 雄太<br>松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp<br><a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a><br>山口 一大 木曜13:00~14:00<br>人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         |   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |



|       |  |
|-------|--|
| キーワード | 仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 |
|-------|--|

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 心理統計学基礎  |
| 科目番号                    | OATB060  |
| 単位数                     | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                  | 1 年次   |
| 時間割                     | 春AB 金7,8   |
| 担当教員                    | 藤 桂  |
| 授業概要                    | 社会科学における統計学の使い方の基礎を解説する。本講義は、「社会調査法」「データ解析法」履修のための基本要件である。   |
| 備考                      | OATD321と同一。<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法                    | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知の活用力</li> <li>・ マネージメント能力</li> <li>・ コミュニケーション能力</li> <li>・ チームワーク力</li> <li>・ 国際性</li> <li>・ 研究力</li> <li>・ 専門知識</li> </ul> |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 質問紙や実験等で得られた数量データを統計的に解析する方法を学ぶことで、第一に、修士論文作成に備える。第二に課程修了後の実務でも広く役立つ統計的な知識やデータの見方を身に付ける。   |
| 授業計画                    | <p>イントロダクション:統計の目的と意義,平均値と分散</p> <p>正規分布とは</p> <p>中心極限定理</p> <p>統計的仮説検定の論理</p> <p>t検定</p> <p>分散分析</p> <p>相関分析</p> <p>重回帰分析:</p> <p>因子分析</p> <p>全体のまとめとふりかえり</p>        |
| 履修条件                    | 特になし。  |
| 成績評価方法                  | 講義中に課す課題の内容(50%)と講義中の発表・討論の内容(50%)に基づいて評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+~Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 講義中に配布された講義資料を用いての復習,第1回講義時に示す関連文献・書籍を用いての予習に取り組むこと。<br>その他,必要に応じて講義中に示す。  |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 基本的に,授業中に配布する資料のみを用いますが,下記参考図書も手元にあると便利かと思われます。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         | 担当教員の連絡先は以下のとおり。<br>訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。<br>k-fuji-3 at human.tsukuba.ac.jp   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | いずれもオンラインで開講しますが,些細なことでも構いませんので,積極的な発言や質問をお願いいたします。  |

|   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 他の授業科目との関連                              | OATD322 社会調査法<br>OATD323 データ解析法  |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) | 必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。   |
| キーワード                                   | 心理統計, t検定, 分散分析, 相関, 重回帰分析, 因子分析 |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 心理基礎科学英語1  |
| 科目番号               | OATB061  |
| 単位数                | 1.0 単位   |
| 標準履修年次             | 1・2 年次   |
| 時間割                | 春学期 随時   |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | 心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、広く心理学が関係する領域全体を対象として、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。<br>加えて、英語で国際的な視点、方法で情報発信していくための基礎技能を身につける。   |
| 備考                 | 英語で授業。<br>オンライン(オンデマンド型)   |
| 授業方法               | 演習   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力 コミュニケーション能力 国際性<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 本科目は、心理専攻の学生が国際的な研究活動を推進していく認知的技能並びに知識を獲得することを目的として、a) 心理学に関するweb教材による学習,あるいはb)国際学会、ワークショップ、実習活動などを通じた学習に対し、その学修効果が専攻で認められた場合に、単位認定をする   |
| 授業計画               | 本講義は、web教材の視聴や国際学会等への参加と報告書に基づいて単位が認定される。そのため、明確な授業計画を立てるのが難しいために、以下の流れに沿って講義を進める。<br>A. e-learningによる心理学の学修<br>下記の要件を満たすe-learning心理学学習教材について、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ学位プログラム教育(専攻)教育会議に報告・承認を得ている場合、その学修活動をもって単位の取得を認める、<br>*対象とする教材の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。<br>1)他大学において作成・運営されている心理学に関するweb教材による学修<br>2)主たる使用言語が英語である<br>3)一方的な視聴など受動的な学習様態のみではなく、discussion,debate,presentation, action paperなどのreporting活動を含む<br>4)当該のe-learningを修了したことを確認できる文書がある<br><br>B.国際的な活動による心理学の学習<br>下記の要件を満たす国際学会、シンポジウム・ワークショップ、インターンシップについて、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ対象とする活動の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。<br>1)学会あるいは大学、あるいはそれに匹敵すると認定される研究施設等で計画・運営される心理学に関する研究活動に通算2日間(6.5時間/日として、13時間)以上の活動に参加できる<br>国際学会での発表、国際シンポジウム、国際ワークショップなどの他、心理学の専門家を対象とした国際インターンシップも対象として含める。 |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業計画                   | <p>2)主たる使用言語が英語である</p> <p>3)一方的な聴講など受動的な学習様態のみではなく, discussion, debate, presentation などのアクティブな活動を含む</p> <p>4)当該の活動を修了したことを確認できる文書がある</p> <p>学位プログラム教育会議に報告・承認を得ている場合, その活動をもって単位の取得を認める</p> <p>A. e-learningによる心理学の学修</p> <p>1)受講生は履修を希望する学修プログラムを自ら選択し, 指導教員に対し, その有用性, 必然性を申請する.</p> <p>2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する. また, 学位プログラム教育会議に報告し, 単位取得の承認を得る.</p> <p>3)単位取得の承認が得られたら, 受講生は学修活動を行う. その前後に, TWINSにて履修登録をしておく.</p> <p>4)学修課程修了後, 受講生は報告書を提出し, 指導教員はそれを確認, 承認した場合は, 科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡, 依頼する. 同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する.</p> <p>B. 国際的な活動による心理学の学修の場合</p> <p>1)受講生は履修を希望する国際活動を自ら選択し, 指導教員に対し, その有用性, 必然性を申請する.</p> <p>2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する. また, 専攻教育会議に報告し, 単位取得の承認を得る.</p> <p>3)単位取得の承認が得られたら, 受講生は国際活動を行う. その前後に, TWINSにて履修申請をしておく.</p> <p>4)学修課程修了後, 受講生は報告書を提出し, 指導教員はそれを確認, 承認した場合は, 科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡, 依頼する. 同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する. なお, 報告書においては, 13時間の学習活動が行われたことを示す内容とする(例:国際学会などでは, 自分自身の発表の他, 複数の学会セッションでの学習活動についても報告する).</p> |
| 履修条件                   | 心理学学位プログラムの正規生であること  |
| 成績評価方法                 | <p>申請された学習内容と報告書に記載された学習活動, 取得した成績に基づいて学位プログラムリーダーが成果を評価し, 専攻教育会議で承認する</p> <p>e-learningによる心理学の学修の場合には, 取得した成績(100%)にもとづいて, 国際的な活動による心理学の学修の場合には報告書に記載された学習活動(100%)にもとづいて下記の5段階で評価する。</p> <p>A+: 到達目標を達成し, きわめて優秀な成績をおさめている</p> <p>A: 到達目標を達成し, 優秀な成績をおさめている</p> <p>B: 到達目標を達成している</p> <p>C: 到達目標を最低限達成している</p> <p>D: 到達目標を達成していない</p>   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 視聴した教材, あるいは参加した学会の発表に関する内容を自分で調べ, まとめること  |
| 教材・参考文献・配付             | 1単位の授業科目は, 45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 資料等                             |  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 英語 e-learning心理学学習教材 国際学会 シンポジウム・ワークショップ, 国際インターンシップ |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 心理基礎科学英語2   |
| 科目番号               | OATB062   |
| 単位数                | 1.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1・2 年次  |
| 時間割                | 秋学期 随時  |
| 担当教員               | 濱口 佳和   |
| 授業概要               | <p>心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、特に自分自身の研究興味に関連する領域について、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。</p> <p>加えて、英語で国際的な視点、方法により情報発信していくための基礎技能を身につける。</p>   |
| 備考                 | <p>英語で授業。</p> <p>オンライン(オンデマンド型)</p>   |
| 授業方法               | 演習  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <p>1.汎用コンピテンス<br/> 知の活用力 コミュニケーション能力 国際性</p> <p>2.専門コンピテンス<br/> 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力</p>  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | <p>本科目は、心理専攻の学生が国際的な研究活動を推進していく認知的技能並びに知識を獲得することを目的として、a) 心理学に關係するweb教材による学習、あるいはb)国際学会、ワークショップ、実習活動などを通じた学習に対し、その学修効果が専攻で認められた場合に、単位認定をする</p>  |
| 授業計画               | <p>本講義は、web教材の視聴や国際学会等への参加と報告書に基づいて単位が認定される。そのため、明確な授業計画を立てるのが難しいために、以下の流れに沿って講義を進める。</p> <p>A. e-learningによる心理学の学修</p> <p>下記の要件を満たすe-learning心理学学習教材について、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ学位プログラム教育教育会議に報告・承認を得ている場合、その学修活動をもって単位の取得を認める、</p> <p>*対象とする教材の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)他大学において作成・運営されている心理学に關係するweb教材による学修</li> <li>2)主たる使用言語が英語である</li> <li>3)一方的な視聴など受動的な学習様態のみではなく、discussion,debate,presentation, action paperなどのreporting活動を含む</li> <li>4)当該のe-learningを修了したことを確認できる文書がある</li> </ol> <p>B.国際的な活動による心理学の学習</p> <p>下記の要件を満たす国際学会、シンポジウム・ワークショップ、インターンシップについて、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ対象とする活動の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)学会あるいは大学、あるいはそれに匹敵すると認定される研究施設等で計画・運営される心理学に關係する研究活動に通算2日間(6.5時間/日として、13時間)以上の活動に参加でき</li> </ol> |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業計画                   | <p>る。国際学会での発表、国際シンポジウム、国際ワークショップなどの他、心理学の専門家を対象とした国際インターンシップも対象として含める。</p> <p>2)主たる使用言語が英語である</p> <p>3)一方的な聴講など受動的な学習様態のみではなく、discussion,debate,presentationなどのアクティブな活動を含む</p> <p>4)当該の活動を修了したことを確認できる文書がある</p> <p>学位プログラム教育会議に報告・承認を得ている場合、その活動をもって単位の取得を認める</p> <p>A.e-learningによる心理学の学修</p> <p>1)受講生は履修を希望する学修プログラムを自ら選択し、指導教員に対し、その有用性、必然性を申請する。</p> <p>2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する。また、学位プログラム教育会議に報告し、単位取得の承認を得る。</p> <p>3)単位取得の承認が得られたら、受講生は学修活動を行う。その前後に、TWINSにて履修申請をしておく。</p> <p>4)学修課程修了後、受講生は報告書を提出し、指導教員はそれを確認、承認した場合は、科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡、依頼する。同時に学修内容ならびに報告書の内容、取得した成績から成績を認定する。</p> <p>B.国際的な活動による心理学の学修の場合</p> <p>1)受講生は履修を希望する国際活動を自ら選択し、指導教員に対し、その有用性、必然性を申請する。</p> <p>2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する。また、学位プログラム教育会議に報告し、単位取得の承認を得る。</p> <p>3)単位取得の承認が得られたら、受講生は国際活動を行う。その前後に、TWINSにて履修申請をしておく。</p> <p>4)学修課程修了後、受講生は報告書を提出し、指導教員はそれを確認、承認した場合は、科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡、依頼する。同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する。なお、報告書においては、13時間の学習活動が行われたことを示す内容とする(例:国際学会などでは、自分自身の発表の他、複数の学会セッションでの学習活動についても報告する)。</p> |
| 履修条件                   | 心理学学位プログラムの正規生であること   |
| 成績評価方法                 | <p>申請された学習内容と報告書に記載された学習活動、成績等から学位プログラムリーダーが成果を評価し、学位プログラム教育会議で承認する</p> <p>e-learningによる心理学の学修の場合には、取得した成績(100%)にもとづいて、国際的な活動による心理学の学修の場合には報告書に記載された学習活動(100%)にもとづいて下記の5段階で評価する。</p> <p>A+:到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている</p> <p>A:到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</p> <p>B:到達目標を達成している</p> <p>C:到達目標を最低限達成している</p> <p>D:到達目標を達成していない</p>  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <p>視聴した教材、あるいは参加した学会の発表に関する内容を自分で調べ、まとめること</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。</p>   |
| 教材・参考文献・配付             |   |



|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 資料等                             |  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 英語 心理学e-learning教材 国際学会 ワークショップ シンポジウム |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 授業科目名                   | 感覚知覚心理学特講   |
| 科目番号                    | OATB071   |
| 単位数                     | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                  | 1・2 年次  |
| 時間割                     | 春C夏季休業中 集中  |
| 担当教員                    | 綾部 早穂   |
| 授業概要                    | 情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。前年度に発表された海外雑誌論文の中から数報を選び、様々な観点から最新のデータと解釈、知見を学び、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。   |
| 備考                      | オンライン(オンデマンド型)  |
| 授業方法                    | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | 人の知覚・認知および情動に関する研究で説明されるデータや情報を理解する能力を養う。専門コンピテンス、 心理学的問題発見と人間理解力、 心理学的問題解決力、 心理学的情報発信力、 他領域間コミュニケーション力の向上を目指す。   |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 情動理論の新説を理解する  |
| 授業計画                    | <p>テキスト(2023年度は「情動はこうしてつくられる」)を輪読し、構成主義的情動理論についての理解を深める。</p> <p>第1回 役割分担決め、序</p> <p>第2回 新たな情動の科学(1-3章)</p> <p>第3回 新たな情動の科学(1-3章)</p> <p>第4回 情動はいかにつくられるのか(4,5章)</p> <p>第5回 情動はいかにつくられるのか(6,7章)</p> <p>第6回 情動はいかにつくられるのか(4-7章まとめ)</p> <p>第7回 情動の科学の実践的意義(8,9章)</p> <p>第8回 情動の科学の実践的意義(10,11章)</p> <p>第9回 情動の科学の実践的意義(12章、8-12章まとめ)</p> <p>第10回 締めくくり(13章)</p> <p>今後、検討されるべき研究トピックについて具体的な実験計画を考案しながら、検討する。</p> |
| 履修条件                    | 特になし  |
| 成績評価方法                  | 講義内での自身の発表(80%)および他者の発表に対する意見や討論(20%)に対して評価する。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。   |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 情動はこうしてつくられるー脳の隠れた働きと構成主義的情動理論ー リサ・フェルドマン・バレット著 高橋洋訳 紀伊国屋書店   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         | 特になし。必要あれば、メールで連絡すること。<br>sahoaya at human.tsukuba.ac.jp  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) |   |
| 他の授業科目との関連              |   |
| ティーチングフェロー              |   |

|                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| (TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |                  |
| キーワード                     | 知覚、認知、情動、行動、神経基盤 |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名                           | 心理学と認知支援工学特講  |
| 科目番号                            | OATB072   |
| 単位数                             | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                          | 1・2 年次  |
| 時間割                             | 通年 集中   |
| 担当教員                            | 大山 潤爾   |
| 授業概要                            | 感覚知覚心理学や認知心理学の実験心理学的アプローチを応用して、産業界や社会の課題に対するソリューションを提供できる研究の考え方、進め方について解説する。講義に加えて、受講生参加型ディスカッションと体験実習を含む。具体的には、企業との実際の共同研究事例に基づいて、ニーズの抽出・心理学的知見との対応・共同研究のテーマと目標の設定・実験計画・実験結果の社会実装までをロールプレイ等を交えて学ぶ。 |
| 備考                              | 実施場所：産業技術総合研究所中央事業所6群6-11棟626室 〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1<br>対面  |
| 授業方法                            | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係              | 専門コンピテンスのうち、 心理学的問題発見と人間理解力、 心理学的問題解決力、 心理学的支援力、 心理学的情報発信力と多様性の理解、 社会問題解決のための実践志向と社会実装のための多領域間コミュニケーション力に該当する。  |
| 授業の到達目標（学修成果）                   | 心理学の研究知見を支援技術や情報デザインなどに応用する社会実装の考え方、社会課題を解決する心理学研究の考え方ができるようになる。  |
| 授業計画                            | 第1回：実験心理学に対する社会や産業界の期待<br>第2回：社会のニーズから基礎研究を思考する<br>第3回：心理学の認知支援への応用事例紹介<br>第4回：社会課題に対するソリューションの提案方法<br>第5回：心理学研究知見の社会実装   |
| 履修条件                            | 特になし  |
| 成績評価方法                          | 全ての講義に出席し、レポートの提出することを単位取得条件とする。成績はレポートの内容及び実習や討論への参加や発表内容を総合的に評価する。<br>評価は、レポート30%、討論での発表内容30%、授業への積極性40%とし、総合で満点の60%をとること。なお、A+～C の評点は総合得点に基づいて行う。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 講義（35%）、実習（65%）<br>授業後に宿題を課すので、次回に発表資料やレポートを作成し提出すること。<br>全ての回に出席しインタラクティブな議論では積極的に発言して授業に参加すること。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 教材の指定は無し。参考文献は適宜指示する。   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 受講希望者は4月20日までに授業担当者にメールで連絡すること。<br>講義日程は受講生との相談の上、9月から11月末までの間で変更になる可能性があります。   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |   |
| キーワード                           | 認知、知覚、注意、記憶、加齢、多様性、デザイン、社会実装  |

|                      |  |
|----------------------|--|
| 授業科目名                | 認知心理学特講  |
| 科目番号                 | OATB073  |
| 単位数                  | 2.0 単位   |
| 標準履修年次               | 1・2 年次   |
| 時間割                  | 春A 月5; 春B 月6   |
| 担当教員                 |  |
| 授業概要                 | Psychonomic Society、Cognitive Science等各雑誌等の認知心理学研究の文献をとりあげ、それに基づく議論を中心に行う。毎回の授業では、1本の論文をとりあげ、当該の文献内容のレビューをしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提を明確化する、当該論文における問題のとらえ方の特徴とその詳細化を把握し、具体的な研究方法とその分析の方法、得られた結果からの展開の仕方について、批判的に検討する。レビュー担当を務める者は、その論文の背景となる関連研究についても広く深く検討をしていくことが求められる。   |
| 備考                   | 2024年度開講せず。<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法                 | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係   | 「知の活用力」を高めるとともに、「心理学的問題発見と人間理解力」「心理学的問題解決力」「心理学的情報発信力」「多領域間コミュニケーション力」を育成する。   |
| 授業の到達目標(学修成果)        | 認知心理学の基本的な概念に関する文献研究を丁寧に理解し、それを受講生それぞれのもつ研究問題の中で展開することにより、それをいかに構成概念として精練し、いかにして実証的研究に結び付けることができるようにする。その意味するところを理論上、ならびに社会実践上において展開していくことが可能か議論することで、批判的思考を身につける。   |
| 授業計画                 | <p>認知心理学は、すべての心理学的研究において、過程と機序を考える上での基本となる概念を対象として、実証的に検討を進めていく研究領域である。そこで、それぞれの受講生にとっての特に重要な概念は何か、第1回目のガイダンス時に相互に議論をしながら抽出をしていく。そこで抽出された9つの「基盤となる基礎概念」について、基本文献を読みながら議論をしていく形で授業を進めていく。</p> <p>第1回：オリエンテーション：認知心理学の基本概念と実証<br/> 第2回：作業記憶<br/> 第3回：認知的制御と注意<br/> 第4回：認知の個人差と方略<br/> 第5回：思考、意思決定とその検討方法<br/> 第6回：価値、感情、動機付け<br/> 第7回：学習と知識表象<br/> 第8回：認知的デザインと認知的負荷<br/> 第9回：認知的加齢研究がもたらすもの<br/> 第10回：まとめ</p> <p>全ての受講生が、「自分にとっての重要な認知的概念」を明らかに、それぞれの重要な課題について、認知心理学的な基礎的な知見、枠組み、方法論、可能性と限界について語れるようになることを学修の目的とする。</p> |
| 履修条件                 | 認知心理学の基礎概念を獲得し、認知過程ならびに機序を明らかにしていくための基本的方法論についての知識と基礎技能を習得している者  |
| 成績評価方法               | 毎回の授業における発表ならびに議論への主体的参加活動を評価の対象とする(100%)  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 第2回から第9回までの授業時間において、全員が読むべき基礎文献を指定する。授業時間までにその文献を読み、特に議論をすべきポイントについては、自分自身の研究興味との  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 方法                              | <p>関係を中心に,まとめてくることが必要とされる.</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。</p>   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 教材,参考文献については,第1回目の授業時に連絡する.   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | メールによりアポイントメントを取ってください.   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | <p>主体的に学ぶ意欲とそのために最低限必要な基礎知識・技能を身につけていることを必要とする！</p> <p>・対面での授業開催を原則としますが,新型コロナウイルス感染状況に応じて,遠隔-双方向での授業実施を行います.後者の場合,開講時間2コマの時間帯に,自宅からオンラインで授業参加が難しい場合は,あらかじめ担当教員に連絡してください.</p> |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |   |
| キーワード                           | <p>認知心理学, 科学的実践, 基本概念と実証, 記憶, 理解, 思考, 意思決定, 価値, 感情, 認知的制御, 学習, 認知的デザイン, 認知的加齢 等</p>   |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 教育心理学特講   |
| 科目番号                   | OATB081   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次  |
| 時間割                    | 秋AB 金3,4  |
| 担当教員                   | 外山 美樹   |
| 授業概要                   | 教育心理学の分野の文献を講読し、教育心理学の方法論や最新の研究成果についての知識を深める。また、授業を通して、発表レジュメのまとめ方、プレゼンテーションの仕方といったような卒業研究に結びつくようなスキルの獲得を目指す。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文(英文を含む)や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。各受講生が興味を持つ論文(英語、日本語)を2本ずつ程度発表する予定である。   |
| 備考                     | 対面  |
| 授業方法                   | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | ○汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力<br><br>○専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 教育心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。具体的には、教育心理学に関する様々な研究方法や分析方法を獲得すること。   |
| 授業計画                   | 1 オリエンテーション:授業で使用する書物の決定ならびに各人の興味に合わせた分担決定<br>2 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/教育心理学の研究方法)<br>3 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/教育心理学の分析方法)<br>4 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/教育心理学の実践方法)<br>5 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/最新の研究方法)<br>6 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/最新の分析方法)<br>7 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/最新の実践方法)<br>8 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/レビュー論文)<br>9 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/総合的な討論)<br>10 まとめ |
| 履修条件                   | 授業担当教員の判断による。   |
| 成績評価方法                 | レポート(発表内容)(70%)と討論参加の内容(30%)に基づいて成績評価を行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <学修時間の割り当て><br>受講者による発表(60%),全員での討論(40%),実習   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>&lt; 授業外における学修方法 &gt;</p> <p>まずは、授業で学んだこと（専門用語の理解，統計分析の理解）について，復習をすること。</p> <p>それ以外にも，常日頃，様々な論文に目を通してください。</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。</p> |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 随時配布する。  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | <p>オフィスアワー:メールによる問い合わせ</p> <p>mtoyama at human.tsukuba.ac.jp</p>   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 積極的な授業参加を望みます。   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 教育心理学 研究方法 分析方法  |



|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 行動デザイン特講   |
| 科目番号                   | OATB082  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次   |
| 時間割                    | 秋AB 火5,6   |
| 担当教員                   | 松田 壮一郎   |
| 授業概要                   | 人間行動の記述、予測、制御を目的とした応用行動分析学を中心に据え、「行動」の機能を分析することを達成目標とする。また、最新の発達研究を行動分析的観点から読み解くことにより、新たな研究パラダイムを創出することも目的とする。行動変容に用いることができる最新のテクノロジーを概観すると共に、他分野(医学・工学など)との協働を通じた新しい研究、及びビジネスの可能性を、ディスカッションを通じて探っていく。他分野との協働により、人の行動変容について、新たな視点を提供する、行動のデザインを共に創造していく。 |
| 備考                     | 対面   |
| 授業方法                   | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 汎用コンピテンス：知の活用力<br>専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力、他領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標（学修成果）          | （１）行動変容に関する最新の英語論文を読み、発表資料としてまとめ、整理して他者へ伝えること。<br>（２）行動変容に関する最新の英語論文で用いられているデータ分析手法を理解すること。<br>（３）行動変容に関する最新の英語論文で用いられているキーワードを理解し、自分の言葉でリフレーズできること。   |
| 授業計画                   | 1. オリエンテーション：シラバスの説明と確認，文献の調べ方，発表の仕方<br>2. 文献発表：「心」による行動の説明の問題点<br>3. 文献発表：行動の定義，観察法と実験法<br>4. 文献発表：弁別と般化<br>5. 文献発表：レスポナント<br>6. 文献発表：オペラント<br>7. 文献発表：刺激性制御<br>8. 文献発表：強化随伴性<br>9. 文献発表：言語行動，随伴性形成行動とルール支配行動<br>10. 最終発表                               |
| 履修条件                   | なし   |
| 成績評価方法                 | （１）評価方法：出席を前提とし，積極的に演習へ参加している場合に単位認定する。<br>（２）評価の配点：毎週の発表や質疑の内容（約90%），学期末の最終プレゼンテーションにおける発表と質疑の内容（約10%）  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 演習(100%)<br>履修者は毎週、国際誌掲載された英語論文を少なくとも3本読んでまとめ、発表する。授業実施形式は、Teams会議によるリアルタイム講義と、対面講義のハイブリッド形式とする。履修者は、各自の希望に応じ、参加形態を決めることができる。<br><br>授業外における学習の方法:英語論文を日常的に読み、まとめること。授業に関するコミュニケーションはTeamsもしくはSlackで行う。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。         |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等                   | <p>参考図書（教科書は指定しない。購入する必要はない）：</p> <p>1) Cooper, J. O., Heron, T. E., &amp; Heward, W. L. (2007). Applied Behavior Analysis. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ: Pearson. (クーパー, J. O., ヘロン, T. E., ヒュワード, W. L. 中野良顯 (訳) (2013). 応用行動分析学 明石書店)</p> <p>2) Mazur, J. E. (2005). Learning and Behavior. Upper Saddle River, NJ: Pearson Hall/Pearson Education.(メイザー, J. E. 磯博行・坂上貴之・川合伸幸 (訳) (2005). メイザーの学習と行動 二瓶社)</p> <p>3) Barlow, D. H., Nock, M., &amp; Hersen, M. (2009). Single Case Experimental Design: Strategies for studying behavior for change (3rd ed.). Boston, MA: Pearson Education Inc.(バーロー, D. H., ハーセン, M. 高木俊一郎・佐久間徹 (監訳) (1997). 一事例の実験デザイン: ケーススタディの基本と応用 二瓶社)</p> |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | <p>Microsoft Teamsのチャット機能, もしくはSlack等で随時質問を受け付けます<br/> matsuda at human.tsukuba.ac.jp<br/> <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a></p>   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | <p>受講生に望むこと: ヒトの行動変容や心理学研究におけるテクノロジーの活用についての知見を、自身の研究のみならず、自身の生活に活かして、より「幸せ」を感じやすくなりたいと考えている全ての方の受講を歓迎します。社会的課題と自身の研究との繋がりを常に考えながら、聴衆に応じたプレゼンテーションによって他者へ効果的に伝えるスキルを獲得してもらいたいです。</p> <p>注1)授業開始前にPCやスマホなどにSlackを事前にダウンロードしてください。<br/> <a href="https://slack.com/intl/ja-jp/">https://slack.com/intl/ja-jp/</a></p> <p>注2)社会的課題に関連して、国際目標である、持続可能な開発目標(SDGs)や、各種統計調査などをサーベイしておく、アイデアが出やすくなるかもしれません。</p> <p>注3)論文の読み方については過去にアップしたスライドが参考になるかもしれません。<br/> <a href="https://www.slideshare.net/SoichiroMatsuda1/ss-97245000">https://www.slideshare.net/SoichiroMatsuda1/ss-97245000</a></p>   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | なし   |
| キーワード                           | 応用行動分析学、人工知能、VR/AR、テクノロジー、社会的相互作用  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 青年心理学特講   |
| 科目番号               | OATB083   |
| 単位数                | 2.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1・2 年次  |
| 時間割                | 春AB 火3,4  |
| 担当教員               | 佐藤 有耕   |
| 授業概要               | 青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。すなわち、青年とは誰か、青年期あるいは思春期とはどういう時期かについて心理学的に理解を深め、さらに青年の心理を理解するための多様な観点について身につけ、自分の研究に活用できるようにする。講読する文献は、学位論文などの重厚な研究の講読を基本とし、それ以外にも青年心理学の古典、体系的なテキスト、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。少人数で実施し、発表や討論なども行う学生参加型の授業となる。   |
| 備考                 | 対面  |
| 授業方法               | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス<br>1 知の活用力<br>専門コンピテンス<br>1 心理学的問題発見と人間理解力<br>2 心理学的問題解決力<br>4 心理学的情報発信力<br>5 他領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標（学修成果）      | #1 青年,青年期,青年心理学に関連する代表的な知見を理解し,他者に説明できるようになる。<br>#2 青年心理の研究の現状と課題について理解を深め,問題解決のために思考を深めることができるようになる。<br>#3 青年の心理を理解し研究するための複数の観点を身につけることができるようになる。<br>そして,#1に高水準で到達した場合には,青年心理学的アプローチから,心理学的情報発信力と他領域間コミュニケーション力を発揮できるようになる。#2に高水準で到達した場合には,青年心理学的アプローチから,心理学的問題解決力を発揮できるようになる。#3に高水準で到達した場合には,青年心理学的アプローチから,心理学的問題発見と人間理解力を発揮できるようになる。その結果として,知の活用能力が実現可能となり,知を社会に役立てることができる。 |
| 授業計画               | 2022年度から対面に戻しました。対面です。<br><br>青年心理学に関する重要な文献を教材として,青年心理学に関する知見を深める。学位論文などの重厚な研究の講読を基本とし,それ以外にも青年心理学の古典,体系的なテキスト,レビュー論文,最新の学会誌論文,隣接する学問領域の文献などを含める。少人数の受講生を対象として実施し,教員からの講義に加えて,発表や討論なども行う学生参加型の授業となる。<br>授業日(20240106時点での予定):第一回目の授業時にスケジュールを確定させる。(予定)4/16,4/23,4/30,5/14,5/21,5/28,6/4,6/11,6/18,6/25。<br><br>0.オリエンテーション   |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| <p>授業計画</p>                    | <p>1. 思春期・青年期に関する先行知見の理解と確認<br/> 2. 青年期の特徴の通覧-1:生涯発達の中の思春期・青年期の理解等<br/> 3. 青年期の特徴の通覧-2:青年期の身体・心理・対人関係の特徴の理解等<br/> 4. 青年心理学の重要文献の検討1:古典的学位論文(序論を中心に)<br/> 5. 青年心理学の重要文献の検討1:古典的学位論文(本論を中心に)<br/> 6. 青年心理学の重要文献の検討1:古典的学位論文(結論を中心に)<br/> 7. 青年心理学の重要文献の検討2:最近の学位論文(序論を中心に)<br/> 8. 青年心理学の重要文献の検討2:最近の学位論文(本論を中心に)<br/> 9. 青年心理学の重要文献の検討2:最近の学位論文(結論を中心に)<br/> 10. 青年心理学の重要文献の検討3:最新の専門書・テキスト等の検討</p> <p>学位論文と同等の重みと深みを持つ学術図書に替える場合もある。</p> <p>具体的な内容に関しては,受講生との顔合わせの後に,年度ごとに検討して確定していく</p> |
| <p>履修条件</p>                    | <p>日本語の文献が読めること。青年心理学の研究に興味・関心を持てること。発表,質疑応答,討論に参加できること。</p>   |
| <p>成績評価方法</p>                  | <p>授業に参加して,講義内容を十分に理解し,討議や発表や質疑応答など,受講生としての責任を果たした場合に単位の認定を行う。講義された内容に関してレポートの提出(30%),作成された発表資料(40%),討議や発表や質疑応答などの評価(30%)を用い,授業の到達目標に照らして学修成果を確認する。学期末のテストは行わない。成績は,A+,A,B,C,Dの評語で評価する。A+:到達目標を達成し,きわめて優秀な成績をおさめている。A:到達目標を達成し,優秀な成績をおさめている。B:到達目標を達成している。C:到達目標を最低限達成している。D:到達目標を達成していない。</p>   |
| <p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>  | <p>授業で使用する文献については,授業での理解を深めるために予習を行うことが求められる。レポートの作成には,レポート内容の構成のための章立ての決定,レポート内容を充実させるための資料収集,レポート内容を深めるための思考と吟味,レポート内容を他者にわかりやすく伝えるための推敲の作業を含む。口頭発表の場合には,時間内に収めるための発表練習を事前に行うことが望ましい。レポートの提出は,十分に検討した上で,課題が出された週の次の週に提出すること。発展的な学習として,講義で触れた概念や研究について,各自の関心に基づき,図書館及びweb等を活用して,さらなる理解を深めておくことが求められる。以上により,単位取得のためには授業時間と合算して合計90時間の学習を計画的に行うことになる。</p>   |
| <p>教材・参考文献・配付資料等</p>           | <p>紙版もしくは電子ファイルの資料配布を中心とする。参考文献としてシラバス上には下記をあげておく。</p> <p>1. 西平直喜・久世敏雄(編),青年心理学ハンドブック,福村出版,1988<br/> 2. B. Bradford Brown, Mitchell J. Prinstein(編) 子安増生・二宮克美(監訳),青年期発達百科事典全3巻,丸善出版,2014<br/> 3. 日本青年心理学会(企画),新・青年心理学ハンドブック,福村出版,2014</p> <p>ここにあげた3点の書籍は参考文献であり,教科書ではない。購入する必要はないが図書館で見ると良い。</p>  |
| <p>オフィスアワー等(連絡先含む)</p>         | <p>授業のあと(春AB・火34終了後・15:00-15:15)に話すか,前もって e-mail で連絡してもらい,日程調整して会うか,いずれかの方法でお願いします。</p> <p>yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp</p>   |
| <p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p> | <p>真摯に学ぶこと。</p> <p>履修経験者から過去の授業内容を聞いたり,一回目の授業に参加してから,履修するかどうかを判断するとよいでしょう。</p>   |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 他の授業科目との関連                              |                         |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) | 配置なし。                   |
| キーワード                                   | 心理学, 発達, 人格形成, 青年期, 思春期 |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 自己心理学特講  |
| 科目番号                   | OATB084  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次   |
| 時間割                    | 秋AB 木5,6   |
| 担当教員                   | 千島 雄太  |
| 授業概要                   | 自己、アイデンティティ、パーソナリティ、時間的展望等に関する文献を購読し、発表を通じてその概念や理論について理解を深める。購読する文献については、受講生の関心に沿って決定するが、できるだけ最新の文献を選択することで、近年の研究動向や分析方法について理解・習得する。発表後には他の受講者とのディスカッションを行う。   |
| 備考                     | 対面   |
| 授業方法                   | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス：知の活用力、コミュニケーション能力、国際性<br>2.専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標（学修成果）          | 自己心理学に関する最新の研究動向を把握し、適切な研究方法や分析方法を理解・習得する。   |
| 授業計画                   | 第1回 オリエンテーション：受講生の興味に合わせて、担当する文献と日時を決定<br>第2回 パーソナリティ<br>第3回 未来・過去の自己<br>第4回 時間的展望<br>第5回 個人環境適合<br>第6回 アイデンティティ<br>第7回 自己複雑性<br>第8回 SNSにおける自己<br>第9回 身体化された自己<br>第10回 まとめ<br>授業計画は、受講生の関心に沿って適宜修正を行う可能性がある。授業内での課題を通して、最新研究を体験的に学習する機会を設ける。 |
| 履修条件                   | 特になし   |
| 成績評価方法                 | 担当文献の発表：70%<br>授業内での課題やディスカッション：30%<br><br>発表の質と、授業における積極性の合計が60%以上を合格とする。<br>発表の質は、発表の準備状況、論理展開、後続研究への発展性等を基準とする。<br>積極性は、課題への集中度、発言回数、他の受講生との協力度合い等を基準とする。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 講義（20%）、課題演習（10%）、発表（70%）<br>できるだけ最新の文献に触れることで、近年の動向を把握するようにすること。<br>自身が担当する文献だけでなく、他の受講生が担当する文献にも目を通して予習すること。<br>また、派生する研究テーマや分析手法等を事前に調べ、ディスカッションの準備をすること。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 教材・参考文献は授業中に適宜紹介する。<br>1. John F. Rauthmann (編集), The Handbook of Personality Dynamics and Processes<br>2. Mark R. Leary et al. (編集), Handbook of Self and Identity  |

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等                     | <p>3. Maciej Stolarski et al. (編集), Time Perspective Theory: Review, Research and Application</p> <p>4. ガブリエル・エッティンゲン他 (編集), 未来思考の心理学 : 予測・計画・達成する心のメカニズム</p> <p>5. Dov Cohen et al. (編集), Handbook of Cultural Psychology</p> |
| オフィスアワー等 (連絡先含む)                  | メールによる問い合わせ  |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)          | 毎回ノートPCを持参すること。ディスカッションの際には積極的に発言すること。   |
| 他の授業科目との関連                        |  |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) |  |
| キーワード                             | 自己、アイデンティティ、パーソナリティ、時間的展望、文化   |

|                      |  |
|----------------------|--|
| 授業科目名                | 計量心理学特講  |
| 科目番号                 | OATB085  |
| 単位数                  | 2.0 単位   |
| 標準履修年次               | 1・2 年次   |
| 時間割                  | 春AB 金1,2   |
| 担当教員                 | 山口 一大  |
| 授業概要                 | 計量心理学・心理統計学に関わる英語論文・洋書等を輪読し、計量心理学・心理統計学への理解を深め、自身の研究に活かせるようにする。受講生は、英語論文を選択し（洋書の場合には割り当てられた章について）、内容を適切に要約したレジュメを作成し、発表を行い、受講者全員で議論を行う。自分が発表する回以外であっても、発表される文献を熟読し、理解できた点のみならず、疑問点やわからなかった点を整理して講義に臨む。   |
| 備考                   | オンライン(同時双方向型)  |
| 授業方法                 | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係   | ・汎用コンピテンス：知の活用力<br>・学位プログラムコンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標（学修成果）        | 本授業では、心理学や行動科学で用いられる統計手法についての専門書（主に洋書）を輪読し、統計的な手法の理論的な背景や心理学研究での利用方法、ソフトウェアの利用方法を習得する。専門書を輪読し受講者の間で議論を行うことにより、汎用コンピテンス（「知の活用力」）および学位プログラムコンピテンス（「心理学的問題発見と人間理解力」、「心理学的問題解決力」、「多領域間コミュニケーション力」）が身につく。   |
| 授業計画                 | 本授業では、指定されたテキストの章や文献を授業までに熟読し、その内容をレジュメにまとめて参加者に向けて発表を行う。単に内容をまとめるだけでなく、その手法が用いられている具体的な研究を紹介したり、分析ソフトについての補足など追加の情報を加えることが望ましい。<br>以下、各回の講義計画を示す。ただし、使用するテキストは初回の講義の際に指定し、発表する箇所についても初回に役割分担を決定する。<br>第1回：ガイダンス<br>第2回：Overview of Assessment and Psychometric Modeling<br>第3回：Introduction to Bayesian Inference. Conceptual Issues in Bayesian Inference.<br>第4回：Normal Distribution Models. Markov Chain Monte Carlo Estimation.<br>第5回：Regression. Canonical Bayesian Psychometric Modeling<br>第6回：Classical Test Theory. Confirmatory Factor Analysis<br>第7回：Model Evaluation.<br>第8回：Item Response Theory.<br>第9回：Missing Data Modeling.<br>第10回：Latent Class Analysis. |
| 履修条件                 | 特になし。  |
| 成績評価方法               | 自身の担当の発表（準備した資料の質・内容の理解度など、80%）、積極的な議論への参加（自身の発表以外での質問・コメントなど、20%）に基づいて成績評価を行う。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 発表準備が授業の予習に相当する。また、それぞれの講義内容を理解できていることが次の講義の内容の理解に影響を与えるため、講義資料の見直し、講義の録画などを活用   |



|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 方法                              | <p>した復習を行う必要がある。また、自身の発表分の内容のみならず、毎回発表対象となっている内容を事前に熟読して、理解できた点・理解が難しかった点を整理しておくこと。なお、本講義は2単位分の講義に相当するので、講義の時間を含めて合計90時間の学習を必要とする。</p>   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | <p>指定したテキストについては、担当教員が準備を行うので受講者が購入する必要はない。</p> <p>1. Levy, Roy/ Mislevy, Robert J., Bayesian Psychometric Modeling<br/>オンライン（同時双方向）</p> |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | <p>木曜13:00~14:00<br/>人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp</p>   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | <p>心理統計学，計量心理学，潜在変数モデル，シミュレーション</p>  |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 社会心理学特講  |
| 科目番号                    | OATB091  |
| 単位数                     | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                  | 1・2 年次   |
| 時間割                     | 秋AB 木3,4   |
| 担当教員                    | 川上 直秋  |
| 授業概要                    | 社会心理学に関する最近5年以内に掲載された英語論文を受講生が紹介し合い、この分野についての理解を深め、受講生の研究テーマへの適用可能性を探る。受講生は、自分の研究テーマと関連のある社会心理学論文を選び、過去の理論的背景も含めたレジュメを作成・発表する。それに基づき、ほかの受講生と議論を行い、社会心理学の方法論・理論の習得を目指す。   |
| 備考                      | 対面   |
| 授業方法                    | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | ・汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力<br>・専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標（学修成果）           | 英語の学術論文の精読を通して、社会心理学の研究テーマの設定法、研究手法を身につける。   |
| 授業計画                    | 受講者は順番に、社会心理学領域の学術誌から自分の関心のあるテーマに関連する英語論文を紹介・報告する。その報告を受けて全員で討論し、どのような点で自分の研究テーマに活かそうか議論する。<br>第1回 オリエンテーション<br>第2回 発表・ディスカッション(導入)<br>第3回 発表・ディスカッション(研究方法)<br>第4回 発表・ディスカッション(分析)<br>第5回 発表・ディスカッション(考察)<br>第6回 発表・ディスカッション(実験法)<br>第7回 発表・ディスカッション(統計解析)<br>第8回 発表・ディスカッション(全体での討論)<br>第9回 発表・ディスカッション(まとめ)<br>第10回 まとめ |
| 履修条件                    | 社会心理学に興味のある者（特に、実験的方法）   |
| 成績評価方法                  | プレゼンテーション（70%）、討論への参加（30%）に基づいて総合的に評価する。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 紹介する英語論文で使われている方法や統計解析について、説明できるようにしておく。1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。   |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 論文紹介者は、英語論文の内容を説明する資料を作って配布する。これを教材とする。参考文献は、論文紹介者が講義中に紹介する。   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）         | 予めメールでアポイントメントをとる。   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等） |  |
| 他の授業科目との関連              |  |

|   |             |
|---|-------------|
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |             |
| キーワード                                   | 仮説生成法 社会的認知 |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業科目名                           | 臨床社会心理学特講(心の健康教育に関する理論と実践)  |
| 科目番号                            | OATB092   |
| 単位数                             | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                          | 1・2 年次  |
| 時間割                             | 春季休業中 集中  |
| 担当教員                            | 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地  |
| 授業概要                            | 心の健康教育に関する概念や理論への理解を深め、心身の健康の維持増進やストレスマネジメント、ウェルビーイングへと結びつく具体的な実践的アプローチを学習する。受講者は、関連テーマを発表し、他の受講者との間で討議する。  |
| 備考                              | 2024年度開講せず。<br>対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                            | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係              | 1.汎用コンピテンス 知の活用力<br>2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)                   | 心の健康教育に関する概念や理論への理解を深め、心身の健康の維持増進やストレスマネジメント、ウェルビーイングへと結びつく具体的な実践的なアプローチを身につける  |
| 授業計画                            | 心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。<br>第1回：心の健康教育とは<br>第2回：様々な分野における心の健康教育<br>第3回：心の健康教育の実践例<br>第4回：自殺と自殺予防教育<br>第5回：ストレスマネジメント・ストレス低減法<br>第6回：セルフ・コンパッション<br>第7回：自己の客体化<br>第8回：性格への介入<br>第9回：臨床社会心理学と研究実践1<br>第10回：臨床社会心理学と研究実践2 |
| 履修条件                            |   |
| 成績評価方法                          | 各担当教員による課題提出 100%   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 関連論文や関連文献を読むこと。<br>以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特に定めない  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | 各担当教員に個別に連絡を取ること。   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 偶数年度開講。   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 心理教育, 地域支援, ストレス  |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 臨床心理学特講I   |
| 科目番号               | OATB101  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 1 年次   |
| 時間割                | 春AB 金3,4   |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | 臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の領域、臨床心理学の方法論、心理臨床の職業倫理、心理臨床家の職業的発達等について、講義と内外の文献精読・討論を行う。以上に加え本講義では、臨床心理学及び心理臨床実務の中で、特に遊戯療法と箱庭療法の理論と実際について講義と内外の文献精読、演習、DVD視聴を通じて理解を深める。さらに、(公財)日本臨床心理士資格認定協会の定める臨床心理士の業務についても講義し、公認心理師との異同について説明する。  |
| 備考                 | オンライン(対面併用型)   |
| 授業方法               | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス:1. 知の活用力<br>専門コンピテンス:1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 心理臨床を行っていくために必要な臨床心理学の基本的な知識・原理・倫理観を習得する<br>1. 臨床心理学の成り立ちや臨床心理学の構造を理解し, 説明できる<br>2. 臨床家としてのコンピテンシーと発達過程を理解し, 説明できる<br>3. 公認心理師の職責について理解し, 説明できる<br>3. 心理臨床家としての職業倫理について理解し, 具体的な問題について適切な判断ができる<br>4. 遊戯療法並びに箱庭療法の理論とセラピストに必要な態度条件, 具体的な展開過程について理解できる<br>5. 行動療法の理論と具体的な問題行動への適用の仕方を理解できる  |
| 授業計画               | オンライン(対面併用型)により実施する<br>第1回から第7回まではオンデマンド授業ではTeamsによる視聴制限をかけるので, 各自でメンバー登録をしておくこと Teamsコードは ew9m50x<br>第8回以降は講師による講義と割り当てた文献についての受講生の発表と討論によって進める。<br>各回の授業で使用する資料, 文献については講義の中で紹介・配布する<br>各回の授業は2コマを1セットとして行う<br><br>第1回4月19日 臨床心理学とは何か?・臨床心理士の業務・公認心理師の職責<br>第2回4月26日 世界の臨床心理学の歴史1 - 古代から19世紀の精神医学の成立まで<br>第3回5月1日 世界の臨床心理学の歴史2 - フロイトの精神分析・ユングの生涯と理論<br>第4回5月10日 世界の臨床心理学の歴史3 - 精神分析のその語の展開・知能測定の起源・アメリカにおける臨床心理学の成立<br>第5回5月17日 世界の臨床心理学の歴史4 - 1930年代以降の臨床心理学の理論と治療技法の発展<br>第6回5月24日 事例研究法1(事例研究法の概説と実際1 教育領域の研究例)<br>第7回5月31日 事例研究法2(事例研究法の研究例 非行・犯罪領域)<br>第8回6月7日 遊戯療法の理論 |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業計画                            | 第9回6月14日 閉ざされた心の扉1 Dibsのプレイセラピーの過程<br>第10回6月21日 閉ざされた心の扉2 親面接によって明かされた謎   |
| 履修条件                            | 心理学学位プログラム心理臨床学サブプログラムの正規生に受講を限定する  |
| 成績評価方法                          | 60%以上の出席が評価の前提となる。各回の小課題と期末レポートにより評価する。成績に占める比率は1：2とする<br>評価はこの授業の目標の達成度により、下記の5段階で行う<br>A+：到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている<br>A：到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている<br>B：到達目標を達成している<br>C：到達目標を最低限達成している<br>D：到達目標を達成していない                       |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 授業内で紹介された論文・文献を各自で熟読しておくこと<br>2単位の授業科目は、講義時間（4時間×10回＝40時間）を含めて90時間の学修を必要としている。  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 1. 金沢吉展(著),『臨床心理学の倫理をまなぶ』東京大学出版会<br>2. V.M.アクスライン,『開かれた小さな扉 ある自閉児をめぐる愛の記録』日本エディタースクール編集部<br>3. 弘中正美(著),『遊戯療法と子どもの心的世界』金剛出版<br>4. 木村晴子(著),『箱庭療法 基礎的研究と実践』創元社<br>5. 下山晴彦・丹野義彦(編),『講座臨床心理学:臨床心理学とは何か』東京大学出版会<br>上記以外にも学術雑誌の論文を含む |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | 毎週木曜日13時30分-14時<br>yhama at human.tsukuba.ac.jp   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 各回において紹介された文献は各自で熟読すること   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | なし  |
| キーワード                           | 臨床心理士, 公認心理師, 科学者-実践家モデル, コンピテンシーのCube Model, 職業倫理の7原則, 守秘義務, インフォームドコンセント, 無作為化比較試験, 事例研究・事例報告, 遊戯療法, アクスラインの8原則   |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 臨床心理学特講II   |
| 科目番号                   | OATB102   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 1 年次  |
| 時間割                    | 秋AB 火3,4  |
| 担当教員                   | 生田 目光   |
| 授業概要                   | 臨床心理学特講Iに引き続き、臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学及び心理臨床実務における主要な流派の理論と実際、特に、精神分析的療法、来談者中心療法、行動療法・認知行動療法、日本の心理療法について、講義と内外の文献精読・討論を通して理解を深める。公認心理師法、公認心理師の職責、公認心理師の活動5領域についても講義と討論を行う。   |
| 備考                     | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                   | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力,心理学的問題解決力,心理学的情報発信力,多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 本科目は、心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得することを到達目標とする。  |
| 授業計画                   | 臨床心理学の諸基礎理論,心理臨床的介入の実際などを概説するとともに,心理臨床家の社会的役割,倫理等についても解説する。<br>*2020年度は、オンライン(同時双方向型)授業となります。<br>1.精神分析的療法の理論<br>2.精神分析的療法の実際(事例)<br>3.来談者中心療法の理論<br>4.来談者中心療法の実際(事例)<br>5.行動療法の理論<br>6.認知行動療法の理論<br>7.行動療法・認知行動療法の実際(事例)<br>8.日本の心理療法(森田療法、内観療法、臨床動作法等)の理論と実際<br>9.集団心理療法の理論と実際<br>10.まとめと総合討論 |
| 履修条件                   | 心理臨床学サブプログラムの学生に限る。   |
| 成績評価方法                 | 討論への参加 40%<br>レポート 60%  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | (財)日本臨床心理士認定協会が定める臨床心理士の業務,倫理および研鑽などについて十分理解を深めるとともに,インテークカンファレンスなど相談室活動に参加する上で必要な基礎的知識を学ぶ。その上で,専門書に掲載された優れた事例とDVDなどの視聴覚教材を利用して各種心理療法の理論と実際について理解を深める。受講生には積極的に討議に参加することが望まれる。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 1. 大塚義孝(編),『臨床心理学全書1:臨床心理学原論』<br>2. 下山晴彦・丹野義彦(編),『講座臨床心理学:臨床心理学とは何か』<br>その他、授業において提示いたします。  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること。<br>*2020年度は、オンライン(同時双方向型)授業となります。 |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 積極的に参加すること。  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 心理療法、心理面接、支援計画、心理支援、社会的役割、倫理                                       |



|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 臨床心理面接特講I(心理支援に関する理論と実践)   |
| 科目番号                    | OATB103  |
| 単位数                     | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                  | 1 年次   |
| 時間割                     | 春AB 火3,4   |
| 担当教員                    | 生田 目光  |
| 授業概要                    | 心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。授業前半は、心理面接に関する基礎の概説。また、関連文献の発表及び討論を行う。後半は、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行う。  |
| 備考                      | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                    | 演習   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | 専門コンピテンスのうち、1.人間観察力、2.行動分析力、3.心理学的支援力、4.普遍性と耐用性の理解、5.心理学的問題解決実践志向、6.実証的な思考生徒探求心に該当   |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 心理支援に関する理論と実践を学ぶ。特に臨床における支援技術の基本的な知識と実践スキルを習得する。   |
| 授業計画                    | <p>授業前半は、心理支援に関する基礎の概説、また、関連文献の購読、発表及び討論を行う。後半は、ミニ・カウンセリングなど体験学習、事例検討を通して、実際の面接方法について体験的な学習を行う。</p> <p>第1回 臨床支援とは<br/> 第2回 臨床支援の姿勢・構え<br/> 第3回 臨床支援とアセスメント<br/> 第4回 臨床支援の方法 (総論)<br/> 第5回 臨床支援の方法 (精神分析)<br/> 第6回 臨床支援の方法 (行動療法・認知行動療法)<br/> 第7回 臨床支援の方法 (人間性中心療法ほか)<br/> 第8回 臨床支援の場<br/> 第9回 臨床支援の実際<br/> 第10回 臨床事例を考える</p> |
| 履修条件                    | 心理臨床学サブプログラムの学生に限る   |
| 成績評価方法                  | 授業時に提示される課題50%、最終レポート50%により評価  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | <p>授業時に提示される課題について授業外で行い、次の授業に臨むこと。</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本演習では90時間)。</p>  |
| 教材・参考文献・配付資料等           | <p>以下を教材として使用するほか、必要な教材については授業時に提示</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>マリー・コーリー&amp;ジェラルド・コーリー,心理援助の専門職になるために-臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト(臨床心理学レクチャー)</li> <li>杉江征・青木佐奈枝編著,ライブラリスタンダード心理学 スタンダード臨床心理学</li> <li>鎌 幹八郎(著),名島 潤慈(著),心理臨床家の手引[第4版]</li> </ol>  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         |  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 授業に際しては必ず提示された課題を行って参加すること、積極的な姿勢で臨むこと   |
| 他の授業科目との関連              |  |
| ティーチングフェロー              |  |

|                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| (TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |                      |
| キーワード                     | 臨床心理学 心理面接 心理療法 心理支援 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 臨床心理面接特講Ⅱ   |
| 科目番号               | OATB104   |
| 単位数                | 2.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1 年次  |
| 時間割                | 春C 火3,4,金3,4  |
| 担当教員               | 杉江 征  |
| 授業概要               | この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。そのため、授業では、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法に関する体験的な学習を行う。  |
| 備考                 | 対面<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法               | 演習  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用コンピテンス</li> <li>1. 知の活用力 3. コミュニケーション能力</li> <li>・専門コンピテンス</li> <li>1. 心理学的問題発見と人間理解力、2. 心理学的問題解決力、3. 心理学的情報発信力、4. 多領域間コミュニケーション力</li> </ul>  |
| 授業の到達目標（学修成果）      | 心理臨床における面接の基本的技術と態度・心構えを身につけ、相談面接を担当できるようになる。   |
| 授業計画               | <p>ミニ・カウンセリングの検討を行う。ミニ・カウンセリングは、各回、話し手と聴き手の役割をとった模擬面接場面の録音テープ(あるいはビデオ)と逐語録を作成し、それをもとに面接における話の聴き方を検討する。また、グループワークやロールプレイ等も適宜行う。受講者全員が「話し手」と「聴き手」の役割を体験し、個々の受講者の実情に合わせた面接法の基礎的なトレーニングを実施していく予定である。</p> <p>《第1回目》レポーターの割り振りと「話を聴くこと」の概説を行う。「話を聴くこと」の概説の中では、話を聴くことについての「訓練の意味」などについても概説を行う。</p> <p>《第2回目》ミニ・カウンセリング1：面接の始め方</p> <p>《第3回目》ミニ・カウンセリング2：何を聴くのか、訴えに耳を傾けること</p> <p>《第4回目》ミニ・カウンセリング3：相槌の役割と機能、「聴いている」ことを伝える</p> <p>《第5回目》ミニ・カウンセリング4：沈黙の意味と対応、目の前で起こっていること、相手と私の間にあるもの</p> <p>《第6回目》ミニ・カウンセリング5：There and Then と Here and Now</p> <p>《第7回目》ミニ・カウンセリング6：体験過程（話し手の体験の流れにそう）、話し手と聴き手の体験の流れについて</p> <p>《第8回目》ミニ・カウンセリング7：関与しながらの観察</p> |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業計画                            | 《第9回目》ミニ・カウンセリング8：面接の終わり方<br><br>《第10回目》体験の振り返りと「話を聴くこと」についての概説・討論  |
| 履修条件                            | 受講は心理臨床コースの学生に限る  |
| 成績評価方法                          | 課題への取り組み《面接スキルの修得と各テーマの理解度を評価》(70%)、授業への主体的なかかわり方《各回のコメント・振り返りなどから、自己理解の程度を評価》(30%)をもとに全体的な評価を行う。全体の60%が合格の基準。なお、A+～Cの評点は全体合計に基づいて行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 講義(20%)と演習(80%)を併用する。授業外においては、ミニ・カウンセリングの逐語録を作成するとともに、実施した自身のミニ・カウンセリングについて事前に検討しておくこと。さらに、心理臨床に関する書籍や論文、事例報告など文献的な学習を行うとともに、各授業で扱われたテーマ等について、日々の生活の中での自分自身の諸体験を通して、自己に対する理解を深めていくこと。本授業は2単位のため、授業時間と予習復習などの授業外学修を含めて90時間の学修時間を求める。 |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 1. 土居 健郎,『方法としての面接 臨床家のために』(1992)<br>2. James Morrison, “The First Interview 4版” (2014)   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | メールで連絡ください。よろしくお願ひします。<br>sugie at human.tsukuba.ac.jp  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 心理臨床を学ぶ上で大切なのは、会話を通した自己と他者との交流である。それゆえ、授業では、一方的な講義という形態をとらずに、学生と教員あるいは学生間の相互の対話を重視した形式で行う。授業の中で取り上げられる話題についても、各自がそれぞれの体験をもとに吟味し、その話題と自己の在り方を問うことによって心理臨床の基本的な考え方の理解を深めていって欲しい。<br><br>なお、本授業は、原則対面で実施する。                            |
| 他の授業科目との関連                      | OATB103 臨床心理面接特講I(心理支援に関する理論と実践)  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 面接のスキル, 自己理解, 他者理解, 治療関係  |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 臨床心理基礎実習  |
| 科目番号                   | OATB111   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 1 年次  |
| 時間割                    | 春AB秋AB 木3,4   |
| 担当教員                   | 杉江 征, 浅野 憲一, 濱口 佳和, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田目 光, 糸井 千尋, 安 婷婷, 慶野 遥香, 北原 祐理   |
| 授業概要                   | 心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席し、またインテークカンファレンスに出席してケースを臨床心理学的に見立てる力を養う。   |
| 備考                     | 対面  |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理臨床的实践力 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標（学修成果）          | インテークの実際を学び、インテークに必要な最小限の情報収集力の修得や適切なアセスメントを行うなど、インテーカーとして活動できるようになる  |
| 授業計画                   | 心理相談室やこども相談室でのインテークとインテークカンファレンスへの参加。<br>心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室とこども相談室を用いて実習を行う。<br>教員 のインテークに同席したり、インテークを観察し、インテークカンファレンスにも出席してケースをアセスメントの力を養う。1年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である<br><br>第1回：インテーク面接の概要<br>第2回：インテーク面接の準備<br>第3回：インテーク面接の観察<br>第4回：インテーク面接の同席<br>第5回：インテーク面接の実施<br>第6回：インテーク面接の振り返り<br>第7回：インテーク面接の記録作成<br>第8回：インテークカンファレンスでの発表<br>第9回：支援方針の検討<br>第10回：担当者への引継ぎ |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る   |
| 成績評価方法                 | 相談室における活動 40%<br>インテークカンファレンスでの発表 30%<br>インテークカンファレンスでの討論 30%   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われる。以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。   |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 特に定めない  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | <p>セメスター中は毎週木曜13時30分~14時</p> <p>総合研究棟D、701研究室</p> <p>濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 積極的に参加し。質問すること  |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |   |
| キーワード                           | インテーク，ケースアセスメント，観察，心理支援，リファー，見立て  |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 臨床心理実習I(心理実践実習IIC)  |
| 科目番号                   | OATB112   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 2 年次  |
| 時間割                    | 春AB秋AB 木4   |
| 担当教員                   | 浅野 憲一, 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田 目光, 糸井 千尋, 安 婷婷, 慶野 遥香, 北原 祐理   |
| 授業概要                   | 心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の習得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、ケースカンファレンス等を通して、相談者の問題や障害に関する理解を深め、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。   |
| 備考                     | 対面  |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 各相談室における個別ケースを通して心理支援の実践を行い, 心理支援の基本的な技術を身につける  |
| 授業計画                   | ケース・カンファレンスを通して, 心理支援を要する者への知識及び技能を習得と, ニーズの把握及び支援計画, 支援を要するものへのチームアプローチ, 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。<br>相談室内のケースの支援実習を通して, 心理支援を要する者への知識及び技能を習得し, 心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画, 支援を要するものへのチームアプローチ, 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。<br><br>第1回: 担当ケースの事前学習<br>第2回: 担当ケースへの支援<br>第3回: 担当ケースを通じた職業倫理と法的義務に理解<br>第4回: 担当ケースの面接記録・振り返り<br>第5回: 担当ケースの発表資料作成<br>第6回: 担当ケースのカンファレンス<br>第7回: 担当ケースへのチームアプローチ<br>第8回: 担当外ケースの事前学習<br>第9回: 担当外ケースのカンファレンス<br>第10回: 担当外ケースの事後学習 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る   |
| 成績評価方法                 | 相談室における活動 40%<br>ケースカンファレンスでの発表 30%<br>ケースカンファレンスでの討論 30%   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。   |
| 教材・参考文献・配付             | 特に定めない  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 資料等                             |  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 積極的に参加し，質問すること                         |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | ケース・カンファレンス，職業倫理，法的義務，チームアプローチ，支援計画，実習 |



|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 臨床心理実習II  |
| 科目番号                   | OATB113   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 2 年次  |
| 時間割                    | 春AB秋AB 木3   |
| 担当教員                   | 菅原 大地, 浅野 憲一, 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 生田 目光, 安婷婷, 慶野 遥香, 北原 祐理   |
| 授業概要                   | 臨床心理実習Iに引き続き、心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の修得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、相談者の問題や障害に関する支援アプローチについてグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して学ぶ。心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。  |
| 備考                     | 対面  |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 各相談室における個別ケースを通して心理支援の実践を行い、基本的な支援方法を身につける  |
| 授業計画                   | ケース・カンファレンスを通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得と、ニーズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。相談室内のケースの支援実習を通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得し、心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。<br>第1回：担当ケースの事前学習<br>第2回：担当ケースへの支援<br>第3回：担当ケースを通じた職業倫理と法的義務に理解<br>第4回：担当ケースの面接記録・振り返り<br>第5回：担当ケースの発表資料作成<br>第6回：担当ケースのカンファレンス<br>第7回：担当ケースへのチームアプローチ<br>第8回：担当外ケースの事前学習<br>第9回：担当外ケースのカンファレンス<br>第10回：担当外ケースの事後学習 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る   |
| 成績評価方法                 | 相談室における活動 40%<br>カンファレンスでの発表 30%<br>カンファレンスでの討論 30%   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。   |
| 教材・参考文献・配付             | 特に定めない  |

|                                 |                                    |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 資料等                             |                                    |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 |                                    |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 積極的に参加し，質問すること                     |
| 他の授業科目との関連                      |                                    |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |                                    |
| キーワード                           | 心理支援，チームアプローチ，職業倫理，法的義務，カンファレンス，実習 |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 発達臨床心理実習I(心理実践実習IID)   |
| 科目番号               | OATB114  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 2 年次   |
| 時間割                | 春AB秋AB 木3  |
| 担当教員               | 濱口 佳和, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地   |
| 授業概要               | <p>教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室ケースカンファレンスへの出席も含める。</p>   |
| 備考                 | 対面   |
| 授業方法               | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <p>汎用コンピテンス<br/>1. 知の活用力 2. マネージメント能力, 3. コミュニケーション能力, 4. チームワーク力<br/>専門コンピテンス<br/>1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 3. 心理臨床実践力 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力</p>   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの問題が何であるか見極める能力の獲得</li> <li>2. 多様な情報を活用し、子どもの問題の形成、維持、変容についての仮説モデルを構築する能力の獲得</li> <li>3. 子どもの問題のアセスメントに使用される心理検査について理解し、説明でき、テストバッテリーを構成する能力の獲得</li> <li>4. 子どもとの心理臨床の展開過程を理解する能力の獲得</li> <li>5. 子どもの問題状況に即して、有効な援助法を考案できる能力の獲得</li> </ol>  |
| 授業計画               | <p>心理臨床コースの2年時の学生は、本科目が OATB112「心臨床心理実習I(心理実践実習IIC)」のどちらか1科目を選択必修とする。基本的には発達臨床心理学分野(濱口研究室)の学生が履修すること。</p> <p>公益財団法人臨床心理士資格認定協会が定める第1種指定校の必修科目であり、かつ公認心理師受験資格に関わる2年次の実習科目である。</p> <p>受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。この授業では特に相談室のカンファレンスへ(毎週木曜3時限)とGSV(隔週木曜7・8時限)の出席と担当事例の発表・討論への参加が求められる</p> <p>第1回 子ども相談室ガイダンス<br/>第2回 インテーク面接の進め方・記録の取り方・報告書の作成法<br/>第3回 子どもの行動の観察・記録法<br/>第4回 子どもの問題のアセスメント法1 CBCL<br/>第5回 子どもの問題のアセスメント法2 KIDS, MS社会生活能力検査<br/>第6回 子どもの問題のアセスメント法3 自閉スペクトラム症・ADHD関連の検査法<br/>第7回 具体的事例のインテーク情報の検討1(幼児期の内在化問題)<br/>第8回 具体的事例のインテーク情報の検討2(幼児期の外在化問題)</p> |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 授業計画                            | <p>第9回 具体的事例のインテーク情報の検討3 (児童期の内在化問題)</p> <p>第10回 具体的事例のインテーク情報の検討4 (児童期の外在化問題)</p> <p>第11回 相談室マネジメント法</p> <p>第12回 保護者面接の方法</p> <p>第13回 ペアレント・トレーニング1 自己の養育行動・メンタルヘルスを振り返る</p> <p>第14回 ペアレント・トレーニング2 応用行動分析学から見た養育行動の機能の理解を促す</p> <p>第15回 ペアレント・トレーニング3 子どもの行動のモニタリング</p> <p>第16回 ペアレント・トレーニング4 子どもの行動の強化</p> <p>第17回 ペアレント・トレーニング5 適切な指示の与え方</p> <p>第18回 ペアレント・トレーニング6 叱責・罰手続き</p> <p>第19回 継続事例の理解1 子どもの内在化問題の事例</p> <p>第20回 継続事例の理解2 子どもの外在化問題の事例</p> <p>今年度の授業はオンライン双方向・オンデマンドのハイブリッドで行う</p> |
| 履修条件                            | 受講は心理臨床サブプログラムの正規生に限定される。  |
| 成績評価方法                          | 日常の相談室でのケース・実務に対する主体的・協力的参加の度合い(40%),GSVでの発表(40%)、カンファレンス・ケースのミーティングでの発言(20%)を総合的に評価   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>取り上げられた問題行動や精神疾患,介入方法,アセスメント法について,関連資料を熟読して理解を深める。</p> <p>以上について,1単位の授業科目は,45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。</p>   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | <p>1. ゲリー・ランドレス,『新版・プレイセラピー:関係性の営み』 日本評論社</p> <p>2. 弘中正美,『遊戯療法と子どもの心的世界』 金剛出版</p> <p>3. R.フォアハンド&amp;N.ロング,『困った子が5週間で変わる 親にできる行動改善プログラム』日本評論社</p>  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | <p>毎週木曜日13時30分-14時 総合研究棟D706研究室</p> <p>濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp</p>  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | カンファレンスに積極的に参加すること,心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して授業に臨むこと,発表された心理臨床実践についてよく復習をしておくこと,受講生同士での討論を活発に行うこと  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 行動観察,半構造化面接,構造化面接,ケースフォーミュレーション,チーム援助,プレイセラピー,行動療法,社会情緒的学習,多職種連携,事例報告  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 発達臨床心理実習II  |
| 科目番号               | OATB115   |
| 単位数                | 2.0 単位  |
| 標準履修年次             | 2 年次  |
| 時間割                | 春AB秋AB 木7   |
| 担当教員               | 松田 侑子, 濱口 佳和, 水野 雅之, 菅原 大地  |
| 授業概要               | <p>教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室の専任・非常勤相談員によるグループ・スーパービジョンへの出席、発表、討論への参加も含める。</p>  |
| 備考                 | 対面  |
| 授業方法               | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <p>汎用コンピテンス<br/>1. 知の活用力 2. マネージメント能力, 3. コミュニケーション能力, 4. チームワーク力<br/>専門コンピテンス<br/>1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 3. 心理臨床実践力 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力</p>  |
| 授業の到達目標（学修成果）      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの行動、子どもとセラピストとの相互作用を観察・記録し、行動を前後の文脈のから理解する能力の獲得</li> <li>2. 保護者の子どもについての話を傾聴し、効果的に情報を収集・分析する能力の獲得</li> <li>3. 多様な情報を活用し、子どもの問題の形成、維持、変容についての仮説モデルを構築する能力の獲得</li> <li>4. 援助チームの一員としての役割を自覚し、メンバーと協働できる能力の獲得</li> <li>5. 子どもとのラポールを形成する能力の獲得</li> <li>6. プレイセラピーを実施する能力(アクスラインの8原則)の獲得</li> <li>7. 行動療法により子どもの行動を変容する技術の獲得</li> <li>8. 社会情緒的学習を実施する能力の獲得</li> <li>9. 外部機関・多職種と連携する能力の獲得</li> <li>10. 自己の実践を振り返り、内省する能力の獲得</li> <li>11. 事例報告をまとめる能力の獲得</li> </ol> |
| 授業計画               | <p>心理臨床コースの2年時の学生は、本科目が OATB113「臨床心理実習II」の どちらか 1 科目を選択必修。基本的には発達臨床心理学分野(濱口研究室)の学生はこの授業を履修すること。</p> <p>公益財団法人臨床心理士資格認定協会が定める第1種指定校の必修科目である。</p> <p>受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。この授業では特に相談室のカンファレンスへの参加(毎週木曜3時限)とGSV(隔週木曜7・8時限)の出席と担当事例の発表・討論への参加が求められる</p> <p>第1回 介入チーム内での役割行動、プレイルームの施設設備、子どもの行動の観察・記録法</p>   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 授業計画                            | <p>第2回 遊戯療法概説1 理論</p> <p>第3回 遊戯療法概説2 遊戯療法の展開過程1(ラポール形成・初期の展開過程:遊戯法1)</p> <p>第4回 遊戯療法概説3 遊戯療法の展開過程2(発展期の展開:遊戯法2)</p> <p>第5回 遊戯療法概説4 遊戯療法の展開過程3(終結期の展開:遊戯法3)</p> <p>第6回 INREALアプローチの概説</p> <p>第7回 模擬プレイセラピー1(ラポール形成)</p> <p>第8回 模擬プレイセラピー2(受容的・共感的応答)</p> <p>第9回 模擬プレイセラピー3(制限破りへの対応)</p> <p>第10回 具体的事例のGSV4</p> <p>今年度の授業はオンライン双方向・オンデマンドのハイブリッドで行う</p> |
| 履修条件                            | 受講は心理臨床サブプログラムの正規生に限定される。  |
| 成績評価方法                          | 日常の相談室でのケース・実務に対する主体的・協力的参加の度合い(40%),GSVでの発表(40%)、カンファレンス・ケースのミーティングでの発言(20%)を総合的に評価   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | <p>子ども担当のセラピスト,子どもの行動観察者,ならびに保護者の面接陪席者として正確な記録の取り方を心掛けること</p> <p>自分がセラピストとしての役割を果たす際は,あらかじめケース記録に目を通し,子どもの特性の把握に努めること</p> <p>1ケース終結したら必ず通しでケース報告書を作成すること</p> <p>精神疾患や問題行動に関する実証的なエビデンス,使用可能な心理検査,適用可能な子ども対象の心理療法について積極的に関心を持ち,自発的に調べること</p> <p>以上について,1単位の授業科目は,45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。</p>   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | <p>1. グリー・ランドレス,『新版・プレイセラピー:関係性の営み』 日本評論社</p> <p>2. 弘中正美,『遊戯療法と子どもの心的世界』 金剛出版</p> <p>3. R.フォアハンド&amp;N.ロング,『困った子が5週間で変わる 親にできる行動改善プログラム』日本評論社</p>  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | <p>毎週木曜日13時30分~14時 総合研究棟D716研究室</p> <p>濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp</p>  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | カンファレンスやグループ・スーパービジョン,事例ごとのミーティングに積極的に参加すること,心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと,各自が行った心理臨床実践について毎回よく 振り返りを行い,長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい.クライアントやその持ち物に対して損害を与えた 場合の備えとして,相談室を進める保険に加入することを求める.   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 行動観察, 半構造化面接, 構造化面接, ケースフォーミュレーション, チーム援助, プレイセラピー, 行動療法, 社会情緒的学習, 多職種連携, 事例報告   |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 臨床心理査定演習I(心理的アセスメントに関する理論と実践)  |
| 科目番号               | OATB116  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 1 年次   |
| 時間割                | 春C夏季休業中 集中   |
| 担当教員               | 松田 侑子  |
| 授業概要               | 臨床心理学の研究法で、同時に様々な心理臨床の現場で不可欠の技術でもある心理学的査定の理論と方法について学ぶ。演習Iでは、WAISや田中ビネー等の個別式知能検査を中心に取り上げ、理論的に学習するとともに、グループによる実技指導を通じて検査の具体的手続き等、査定技術の習熟を目指す。また、発達検査、ASDやADHDのスクリーニング検査、CBCL等の子どもの問題行動の概括的な評定尺度についても理解を深める。  |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法               | 演習   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力, 2. マネージメント能力, 3. コミュニケーション能力, 4. チームワーク力<br>専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 3. 心理臨床実践力, 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 1. 心理アセスメントの意義について理解し, 説明できる<br>2. 個別式知能検査の開発の経緯について説明できる<br>3. WAISIVをスムーズに実施でき, 正確な記録と解釈ができる<br>4. 田中ビネーVをスムーズに実施でき, 正確な記録と解釈ができる  |
| 授業計画               | 心理臨床の実践でよく用いられる個別式知能検査や発達検査について, それぞれの検査の背景 理論の理解を深めるとともに, 演習を通じて, 検査の実施・採点, 個人の知能・発達水準の評価 の仕方を身につける。公認心理師の業務の中でのアセスメントの意義を理解を深める。<br>第1回 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義<br>第2回 WAISIV知能検査1理論的背景とテストの全体像<br>第3回 WAISIV知能検査2言語理解下位尺度の理論と実際<br>第4回 WAISIV知能検査3知覚推下位尺度の理論と実際<br>第5回 WAISIV知能検査4 ワーキング・メモリ下位尺度の理論と実際<br>第6回 WAISIV知能検査5 処理速度下位尺度・補助検査の理論と実際<br>第7回 WAISIV知能検査6 結果のまとめと解釈<br>第8回 WAIS の実習<br>第9回 田中ビネー 理論的背景とテストの全体像<br>第10回 田中ビネー 実際と結果のまとめ・解釈<br><br>各回は 2時限分 |
| 履修条件               | 受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。  |
| 成績評価方法             | 各回の授業への積極的参加, WAISIVの見極めテスト, レポート課題の出来栄を総合的に評価する<br>評価に対する比重は 1 : 1<br>目標の到達度によって下記の 5 段階で評価する<br>A+ : 到達目標を達成し, きわめて優秀な成績をおさめている<br>A : 到達目標を達成し, 優秀な成績をおさめている  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 成績評価方法                          | B：到達目標を達成している<br>C：到達目標を最低限達成している<br>D：到達目標を達成していない  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | ・本授業は2単位のため、授業外における学修と合わせて90時間分の学修時間を標準とする。そのため授業計画に合わせた学修として、各回の授業内容についての振り返りや、授業で示された参考文献や関連論文・書籍等のレビューに取り組むことを求める<br>・個別式知能検査のマニュアルなどを一定期間貸与するので、その間に実施手続きや解答基準について繰り返し練習をしてスムーズに実施できるようにしておくこと |
| 教材・参考文献・配付資料等                   |  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | 毎週木曜日15時00分~16時00 総合研究棟D705室   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 個別式知能検査はスムーズにできるようになるまで繰り返し練習してください  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） | なし   |
| キーワード                           | 心理アセスメント、個別式知能検査、WAISIV、田中ビネーV   |



|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 臨床心理査定演習II   |
| 科目番号                   | OATB117  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 2 年次   |
| 時間割                    | 春C夏季休業中 集中   |
| 担当教員                   | 菅原 大地, 濱口 佳和, 水野 雅之  |
| 授業概要                   | 臨床心理支援において必須とされる心理査定法(検査法)のうち、特にパーソナリティ検査についてその理論と実践方法を学ぶ。MMPI.P-Fスタディ、SCTやロールシャッハ・テストなど質問紙法、投影法について理論を学ぶと共に試行方法、結果のまとめ方、解釈、フィードバックの仕方を理解する。さらに、テストバッテリーを用いた事例検討を通して複合的アセスメントおよび支援への活用について習熟を目指す。  |
| 備考                     | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                   | 演習   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 専門コンピテンスのうち、1.人間観察力、2.行動分析力心理学的支援力、3.心理学的支援力、4.普遍性と多様性の理解、5.心理学的問題解決実践志向、6.実証的な思考性と探求心に該当  |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 臨床心理支援において必須とされる心理査定法のうち、特にパーソナリティ・アセスメント、及びパーソナリティ検査についてその理論を学び、実践できるようになる  |
| 授業計画                   | 臨床心理支援において必須とされる心理査定法のうち、特にパーソナリティ・アセスメント、及びパーソナリティ検査についてその理論と実践方法を学ぶ。<br>MMPIなど質問紙検査、P-Fスタディ、SCTやロールシャッハ・テスト、描画法など質問紙法、投影法、作業検査について理論を学ぶと共に施行方法、結果のまとめ方、解釈、フィードバックの仕方を理解する。さらに、テストバッテリーを用いた事例検討を通して複合的アセスメントおよび支援への活用について習熟を目指す。<br><br>第1回 臨床心理アセスメントとは<br>第2回 臨床支援におけるアセスメントの実際<br>第3回 RTを中心としたアセスメント<br>第4回 P-Fスタディを中心としたアセスメント<br>第5回 テストバッテリー<br>第6回 投影法を中心としたアセスメント<br>第7回 発達検査を中心としたアセスメント<br>第8回 報告書のまとめ方<br>第9回 検査結果のフィードバック<br>第10回 アセスメントと支援計画 |
| 履修条件                   | 心理臨床学サブプログラムの学生に限る   |
| 成績評価方法                 | 授業時に毎回提示する課題、レポートの評価(50%)と、試験得点の評価(50%)の2点で評価  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業時に提示する課題については必ず行ってから授業に参加すること。<br>以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 以下は使用。その他は授業時に提示する<br>1. 小川俊樹編, 投影法査定心理学特講<br>2. 杉江征・青木佐奈枝編, ライブラリストナード心理学 スタンダード臨床心理学<br>3. 伊藤宗親編, 事例で学ぶ ロールシャッハ法入門   |
| オフィスアワー等(連)            | 菅原 大地  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 絡先含む)                           |   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 授業時に提示する課題については必ず行ってから授業に参加すること                   |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 臨床心理査定, パーソナリティ・アセスメント, 質問紙法, 投映法, 作業検査, テストバッテリー |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 児童臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開X)   |
| 科目番号               | OATB121  |
| 単位数                | 2.0 単位   |
| 標準履修年次             | 1・2 年次   |
| 時間割                | 秋AB 金3,4   |
| 担当教員               | 濱口 佳和  |
| 授業概要               | 児童虐待、不登校、選択性緘黙、いじめ、非行等、学齢期に好発する児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを担当を決めて輪読する。これを通して、家庭と学校における子どもの問題行動や精神疾患に対する取り組みについて、理論と介入方法についての知見の獲得を目的とする。   |
| 備考                 | 西暦奇数年度開講。<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法               | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力<br>専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力<br>2. 心理学的問題解決力<br>3. 心理学的発信力<br>4. 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 1. 発達精神病理学の基本的概念・理論を理解し,説明できる<br>2. 児童臨床心理学の研究方法について理解し,説明できる<br>3. 児童臨床心理学の介入方法について理解し,説明できる<br>4. 攻撃行動・反社会的行動など児童・青年の外在化問題について,概念,アセスメント,介入法について理解し,説明できる<br>5. 抑うつ,不安症等の児童・生徒の内化問題について,概念,アセスメント,介入法について理解し,説明できる<br>6. 自閉スペクトラム症,ADHD等児童・生徒の内化問題について,概念,アセスメント,介入法について理解し,説明できる<br>7. 養育者の心理と行動,特にマルトリートメントについて理解し,説明できる   |
| 授業計画               | 幼児期から青年期までの子どもの心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを取り上げ、担当を決めて輪読する。これを通して、発達精神病理学の基礎理論、発達臨床心理学の研究手法、発達障害、反抗挑戦性障害、うつ病性障害、不安障害等を中心に、病態、アセスメント、介入法などについての知見の獲得を目的とする<br>受講生は各回の授業は参考文献の担当分についてレジュメを作って発表する。授業では、発表内容について講師がさらに補足説明を加え、受講者の理解を深める<br><br>第1回.子どもの精神疾患・問題行動を理解する視座<br>第2回.児童臨床心理学の研究法-事例研究法・単一事例実験計画法<br>第3回.児童臨床心理学の介入法-遊戯療法・箱庭療法<br>第4回.児童臨床心理学の介入方法ー行動療法・認知行動療法<br>第5回. 攻撃行動・反社会的行動など児童・青年の外在化問題<br>第6回.抑うつ,不安症等の児童・生徒の内化問題<br>第7回.発達障害<br>第8回.養育者の心理と行動・マルトリートメント<br>第9回.発達臨床心理学論文精読-基礎研究 |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 授業計画                            | 第10回.発達臨床心理学論文精読－介入研究   |
| 履修条件                            | 他学位プログラム受講生は学部で心理学,発達心理学,臨床心理学の単位を取得した経験があること                                 |
| 成績評価方法                          | 発表内容・発表の仕方,レポートを総合的に評価する。成績に反映させる比率は1:1                                       |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 各回の授業で紹介される論文等を各自で精読すること。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。 |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 1. 石川信一/佐藤正二(編集),「臨床児童心理学」 ミネルヴァ書房<br>2. 弘中正美(著),「遊戯療法と子どもの心的世界」金剛出版          |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | 木曜13時30分~14時<br>yhama at human.tsukuba.ac.jp                                  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 2回(4コマ)以上の欠席で単位の取得は不可となる<br>西暦奇数年度開講  |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |   |
| キーワード                           | 発達精神病理, 事例研究法, 単一事例実験計画法, 遊戯療法, 認知行動療法, 反抗挑戦症, 素行症, 抑うつ障害, 発達障害               |

|                      |   |
|----------------------|---|
| 授業科目名                | 発達臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Y)  |
| 科目番号                 | OATB122   |
| 単位数                  | 2.0 単位  |
| 標準履修年次               | 1・2 年次  |
| 時間割                  | 秋AB 火3,4  |
| 担当教員                 | 濱口 佳和   |
| 授業概要                 | 幼児期から青年期までの子どもの心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを取り上げ、担当を決めて輪読する。これを通して、発達精神病理学の基礎理論、発達臨床心理学の研究手法、発達障害、反抗挑戦性障害、うつ病性障害、不安障害等を中心に、病態、アセスメント、介入法などについての知見の獲得を目的とする   |
| 備考                   | 西暦偶数年度開講。<br>対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                 | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係   | 汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力<br>専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力<br>2. 心理学的問題解決力<br>3. 心理学的発信力<br>4. 多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)        | 1. 教育・学校分野において公認心理師が直面する諸問題について幅広く理解し、説明できる<br>2. 不登校の問題の現状と心理学的支援について理解し、説明できる<br>3. いじめの問題の現状と心理的支援について理解し、説明できる<br>4. 予防教育(社会情緒的学習プログラム)について理解し、説明できる  |
| 授業計画                 | 第1回.10月8日 公認心理師が直面する学校教育分野における今日的課題<br>第2回.10月22日・3時限目のみ 不登校の理論と心理的支援の実際(講義)<br>第3回.11月5日 不登校の理論と心理的支援の実際(実践事例1:非支持的カウンセリングによる成功例)<br>第4回.11月12日 不登校の理論と心理的支援の実際(実践事例2:行動的カウンセリングによる成功例)<br>第5回.12月3日 いじめの理論と心理的支援の実際(講義)<br>第6回.12月10日 いじめの理論と心理的支援の実際(予防教育プログラム1:オルヴェウスいじめ予防プログラム)<br>第7回.12月21日(土) 2時限目 いじめの理論と心理的支援の実際(予防教育プログラム1:KiVaプログラム/シェフィールド・プロジェクト)<br>第8回.12月21日(土) 4時限目 Fast Track予防教育プログラムの概要<br>第9回.12月21日(土) 5時限目 Fast Track予防教育プログラムの長期的成果<br>第10回 12月21日(土)6時限目 まとめと振り返り<br>受講生は各回の授業は参考文献の担当分についてレジュメを作って発表する。授業では、発表内容について講師がさらに補足説明を加え、受講者の理解を深める |
| 履修条件                 | 他学位プログラム受講生は学部で心理学、発達心理学、臨床心理学の単位を取得した経験があること   |
| 成績評価方法               | 発表内容・発表の仕方、レポートを総合的に評価する。成績への反映は1:1とする  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修 | 各回の授業で紹介される論文等を各自で精読すること。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義で  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 方法                              | は90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 適宜紹介する<br>この授業はオンライン双方向で実施します<br>受講生はTeams「0 ATB121_児童臨床倫理学特講(秋AB金3・4時限)」に登録してください<br>Teamsコードは ub2322z です |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | 毎週木曜 午後1時30分~午後2時<br>総合研究棟D 706研究室<br>yhama at human.tsukuba.ac.jp   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 2回(4コマ)以上の欠席で単位の取得は不可となる   |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | なし   |
| キーワード                           | 不登校, いじめ, 予防教育   |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開X)  |
| 科目番号                   | OATB125  |
| 単位数                    | 1.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次   |
| 時間割                    | 秋C 集中  |
| 担当教員                   | 白鳥 裕貴  |
| 授業概要                   | 精神医学の枠組みについて理解を深めるとともに、精神医学の理論、アセスメント、治療について学ぶ。精神医学総論、アルコール・薬物依存、児童・思春期の精神疾患、気分障害、統合失調症、認知症、心因性精神障害、摂食障害、パーソナリティ症状精神病、医療連携、治療等について現役の精神科医が講義を行う。   |
| 備考                     | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る<br>西暦偶数年度開講。<br>オンライン(オンデマンド型)   |
| 授業方法                   | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 汎用コンピテンス<br>1. 知の活用力<br>専門コンピテンス<br>1. 心理学的問題発見と人間理解力<br>2. 心理学的問題解決力<br>4. 心理学的情報発信力<br>5. 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 代表的な精神疾患について、その概要を説明できるようになる。<br>精神疾患に対する薬物治療について、基本となる薬理学的仮説を説明できるようになる。<br>心理療法、精神療法について概要を説明できるようになる。<br>精神科臨床において代表的な施設について概要を説明できるようになる。  |
| 授業計画                   | 第1回 精神医学総論 新井 哲明<br>第2回 治療(精神療法、薬物療法、身体療法) 佐藤 晋爾<br>第3回 行政(精神保健福祉法、精神科救急、自殺、触法精神障害) 白鳥 裕貴<br>第4回 単科精神科病院(統合失調症、双極性障害) 井出 政行<br>第5回 精神科診療所(睡眠障害、不安症、強迫症) 塚田 恵鯉子<br>第6回 リワーク、デイケア(うつ病) 松崎 朝樹<br>第7回 学校(発達障害、児童思春期、摂食障害) 田村 昌士<br>第8回 アルコール、薬物、パーソナリティ障害 袖山 紀子<br>第9回 総合病院(症状精神病、がん患者に対するサポート) 今井 公文<br>第10回 認知症疾患医療センター(認知症、高齢者) 太田 深秀 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る  |
| 成績評価方法                 | レポートで評価する(100%)  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 各講義で説明される疾患や治療法について、関連する書籍を読み、予習と復習を行う。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。   |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 各回、資料を配布する。  |
| オフィスアワー等(連             | 世話人 菅原大地   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 絡先含む)                           |  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 臨床精神医学, モノアミン仮説, ドパミン仮説, リエゾン精神学, 自殺予防, 児童思春期精神医学, 老年期精神医学 |



|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開Y)  |
| 科目番号               | OATB126   |
| 単位数                | 1.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1・2 年次  |
| 時間割                | 夏季休業中 集中  |
| 担当教員               | 糸井 千尋   |
| 授業概要               | 神経心理学に関する最新の文献を取り上げて討論し、臨床心理学に関連する生物学的・神経科学的知識ならびに研究方法について学び、理解を深める。受講する学生が興味・関心のある学術論文、または専門書籍の章を担当・紹介し、受講生全員で討論する。  |
| 備考                 | 西暦奇数年度開講。<br>対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法               | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 汎用コンピテンス：知の活用<br>専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力，心理学的問題解決力，心理学的情報発信力，多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標（学修成果）      | 本授業では，神経解剖学や生理学，精神薬理学などを含む神経・生理心理学の基礎を学び，臨床心理士・公認心理師になる上で欠かせない知識を身につける。   |
| 授業計画               | <p>本授業では，神経・生理心理学に関する概論から，それらの知識をどのように臨床場面で活かすことができるかまで幅広く解説、議論する。遺伝から、神経生理学、神経解剖学、向精神薬の作用機序など、臨床心理士および公認心理師として学ぶべき項目を扱う。また、神経心理学に関連した臨床心理士および公認心理師の実践についても触れる。4日目の演習では受講生にも積極的に講義に参加してもらい、ディスカッション等を行う。一部に文献講読・発表を含む。授業は対面で行う。</p> <p>1日目<br/>第1回 オリエンテーション：遺伝から行動まで<br/>第2回 遺伝子と分子（1）：遺伝子とタンパク質<br/>第3回 遺伝と分子（2）：精神疾患と遺伝</p> <p>2日目<br/>第4回 神経細胞と脳組織（1）：神経生理学の基礎<br/>第5回 神経細胞と脳組織（2）：神経解剖学の基礎<br/>第6回 神経細胞と脳組織（3）：向精神薬の作用機序</p> <p>3日目<br/>第7回 精神疾患への神経科学的アプローチ<br/>第8回 精神疾患の生物学的基礎の伝え方：どうしたらスティグマを減らせるのか</p> <p>4日目<br/>第9回 演習（1）：英語論文の講読・グループディスカッション<br/>第10回 演習（2）：精神疾患に関する生物学的知見を説明してみよう</p> |
| 履修条件               | 心理臨床コースの学生に限る。  |
| 成績評価方法             | 講義後のミニレポート（75%）および演習への参加度（25%）で評価する。  |
| 学修時間の割り当て          | 1～3日目は講義後にミニレポートを課すので、期日までに提出すること。4日目の演習  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| び授業外における学修方法                    | では、英語論文等の内容をもとに議論を行うため、指定した英語論文等を読み、準備することが求められる。<br>1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | その都度指示する。  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | 授業内容に関して質問等がある場合は、以下のメールアドレスまで連絡すること。<br>nakata.mariko.ft@u.tsukuba.ac.jp                  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 遺伝子，分子生物学，神経解剖学，神経生理学，精神薬理学，うつ，統合失調症，双極症，神経発達症，高次脳機能障害                                     |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 心理療法特講   |
| 科目番号                    | OATB127  |
| 単位数                     | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                  | 1・2 年次   |
| 時間割                     | 春季休業中 集中   |
| 担当教員                    | 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地   |
| 授業概要                    | プレイセラピーやペアレントトレーニングなど、子どもと保護者を対象とした心理的支援法と自律訓練法やCBT等、青年・成人を対象とした特定の心理療法について、理論と実際を学ぶ。  |
| 備考                      | 対面(オンライン併用型)<br>2023年度開講。2024年度開講せず。   |
| 授業方法                    | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | ・汎用コンピテンス<br>知の活用力・マネジメント能力・コミュニケーション能力・チームワーク力<br>・専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力・心理学的問題解決力・心理臨床実践力・心理学的情報発信力・多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 様々な心理療法に関する基本的な理論について理解する。<br>いくつかの心理療法を体験し、臨床現場で実践する準備を行う。<br>各心理療法に関するエビデンスについて理解する。   |
| 授業計画                    | 第1回：自律訓練法の理論<br>第2回：自律訓練法の実際<br>第3回：動機づけ面接<br>第4回：行動活性化<br>第5回：Process-Based Therapy<br>第6回：遊戯療法<br>第7回：いじめの理解と対応<br>第8回：子どもの攻撃行動の基礎研究と臨床実践 学際的アプローチに向けて<br>第9回：エクスポージャー/認知再構成法<br>第10回：自律訓練法の振り返りとまとめ |
| 履修条件                    | 受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。  |
| 成績評価方法                  | 期末レポート(100%)を課すので、60%をとること。<br>なお、A+~C の評点は期末レポートの点数に基づいて行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 各教員が指定した教科書・参考書・資料等を事前に読んでおくこと。<br>ホームワーク等が課された場合は、実施し、後日感想を報告できるようにしておくこと。<br>以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。   |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 事前に目を通すべき教科書・参考書・資料等があれば、教員から連絡をする。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         | 各教員に個別に確認をすること。  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 各心理療法に触れるだけでなく、実践できるように、理論を理解するとともに、実践練習やホームワークに励むこと。  |

|   |  |
|---|--|
| 他の授業科目との関連                              |  |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |  |
| キーワード                                   | 心理療法, 自律訓練法, 遊戯療法, 認知行動療法, エクスポーザー, 動機づけ面接,<br>認知再構成法, Process-Based Therapy |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 心理療法特講   |
| 科目番号                    | OATB128  |
| 単位数                     | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                  | 1・2 年次   |
| 時間割                     | 春季休業中 集中   |
| 担当教員                    | 浅野 憲一, 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 慶野 遥香   |
| 授業概要                    | 心理療法特講 とは異なる心理療法に関する最新の理論や実践方法について学ぶ。  |
| 備考                      | 2024年度以降に心理療法特講を廃止し、心理療法特講 に移行する。<br>西暦奇数年度開講。<br>対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                    | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | ・汎用コンピテンス<br>知の活用能力・マネジメント能力・コミュニケーション能力・チームワーク力<br>・専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力・心理学的問題解決力・心理臨床実践力・心理学的情報発信力・多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 様々な心理療法に関する基本的な理論について理解する。<br>いくつかの心理療法を体験し、臨床現場で実践する準備を行う。<br>各心理療法に関するエビデンスについて理解する。   |
| 授業計画                    | 第1回：自律訓練法の理論<br>第2回：自律訓練法の実際<br>第3回：動機づけ面接<br>第4回：行動活性化<br>第5回：Process-Based Therapy<br>第6回：遊戯療法<br>第7回：いじめの理解と対応<br>第8回：子どもの攻撃行動の基礎研究と臨床実践 学際的アプローチに向けて<br>第9回：エクスポージャー/認知再構成法<br>第10回：自律訓練法の振り返りとまとめ |
| 履修条件                    | 受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。  |
| 成績評価方法                  | 期末レポート(100%)を課すので、60%をとること。<br>なお、A+~C の評点は期末レポートの点数に基づいて行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 各教員が指定した教科書・参考書・資料等を事前に読んでおくこと。<br>ホームワーク等が課された場合は、実施し、後日感想を報告できるようにしておくこと。<br>以上、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。   |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 事前に目を通すべき教科書・参考書・資料等があれば、教員から連絡をする。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         | 各教員に個別に確認をすること。  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 各心理療法に触れるだけでなく、実践できるように、理論を理解するとともに、実践練習やホームワークに励むこと。  |
| 他の授業科目との関連              |  |
| ティーチングフェロー              |  |

|                           |   |
|---------------------------|---|
| (TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) |   |
| キーワード                     | 心理療法, 自律訓練法, 遊戯療法, 認知行動療法, エクスポージャー, 動機づけ面接,<br>認知再構成法, Process-Based Therapy |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 授業科目名                   | 心理療法特講  |
| 科目番号                    | OATB129   |
| 単位数                     | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                  | 1・2 年次  |
| 時間割                     | 春季休業中 集中  |
| 担当教員                    | 菅原 大地, 水野 雅之, 生田目 光, 安 婷婷, 北原 祐理  |
| 授業概要                    | 心理療法特講 とは異なる心理療法に関する最新の理論や実践方法について学ぶ。   |
| 備考                      | 西暦偶数年度開講。<br>オンライン(オンデマンド型)   |
| 授業方法                    | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | ・汎用コンピテンス<br>知の活用能力・マネジメント能力・コミュニケーション能力・チームワーク力<br>・専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力・心理学的問題解決力・心理臨床実践力・心理学的情報発信力・多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)           | 最新の心理療法に関する基本的な理論について理解する。<br>臨床現場で実践するための臨床的技能を身につける。<br>各心理療法に関するエビデンスについて理解する。   |
| 授業計画                    | 第1回：心理療法とは<br>第2回：最新の心理療法<br>第3回：最新の心理療法を体験する<br>第4回：最新の心理療法の技法を学ぶ<br>第5回：最新の心理療法の技法を身につける<br>第6回：心理療法のエビデンス<br>第7回：エビデンスと実践<br>第8回：臨床現場での応用<br>第9回：心理療法の統合<br>第10回：まとめ |
| 履修条件                    | 受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。   |
| 成績評価方法                  | 期末レポート(100%)を課すので、60%をとること。<br>なお、A+~C の評点は期末レポートの点数に基づいて行う。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 各教員が指定した教科書・参考書・資料等を事前に読んでおくこと。<br>ホームワーク等が課された場合は、実施し、後日感想を報告できるようにしておくこと。<br>以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。                                  |
| 教材・参考文献・配付資料等           | 事前に目を通すべき教科書・参考書・資料等があれば、教員から連絡をする。   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)         | 各教員に個別に確認をすること。   |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 各心理療法に触れるだけでなく、実践できるように、理論を理解するとともに、実践練習やホームワークに励むこと。   |
| 他の授業科目との関連              |   |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチング   |   |

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| アシスタント (TA) |                         |
| キーワード       | 心理療法, 科学者 実践家モデル, エビデンス |



|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 産業臨床心理学特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y)   |
| 科目番号                   | OATB131   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次  |
| 時間割                    | 秋AB 金7,8  |
| 担当教員                   | 大塚 泰正   |
| 授業概要                   | 本講義では職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング，教育研修，職場復帰支援など）について解説する。単に講師が講義を行うだけでなく，受講生参加型の講義を行う。なお，職場のポジティブ・メンタルヘルスに関するグループまたは個人発表が課される。  |
| 備考                     | 西暦奇数年度開講。<br>OATD306と同一。<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法                   | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | カウンセリング学位プログラム：知の活用力，マネージメント能力，コミュニケーション能力，チームワーク力，専門知識，倫理観<br>心理学学位プログラム：知の活用力，心理学的問題発見と人間理解力，心理学的問題解決力，心理学的情報発信力，多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標（学修成果）          | わが国における職場のメンタルヘルス対策の意義や推進方法についての知識や技能を獲得するとともに，心理専門職として社会の要請に応えられるような素養を身に付ける。また，人々がさらに健康にいきいきと働けるようになるために役立つポジティブ・メンタルヘルスの概要についても理解を深める。ポジティブ・メンタルヘルスについては教科書の中から各自1章を選び，個人またはグループ発表を行う。   |
| 授業計画                   | 職場のメンタルヘルス対策の歴史・法規<br>精神障害の労災認定<br>職場のハラスメント対策<br>働く人のうつ・自殺対策 メランコリー型<br>働く人のうつ・自殺対策 ディスチミア型<br>職場復帰支援 休職開始から休職中のケア<br>職場復帰支援 職場復帰前から職場復帰後のケア<br>職場のストレスチェック<br>職場におけるメンタルヘルス教育研修<br>職場環境改善 |
| 履修条件                   | 特になし。   |
| 成績評価方法                 | 個人またはグループ発表（50%），最終レポート（50%）の内容に基づいて評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い，満点の60%をとることを合格の基準とする。なお，A+～Cの評点は，上記の合計得点に基づいて行う。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外に個人またはグループ発表の準備と最終レポート作成のために5時間程度必要になる。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 関連文献の紹介は適宜行う。   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）        | 担当教員の連絡先は以下のとおり。<br>訪問や相談等の際には，事前にご連絡ください。<br>otsuka at human.tsukuba.ac.jp   |
| その他（受講生にのぞ             | 特になし。   |

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| むことや受講上の注意<br>点等)                       |                                |
| 他の授業科目との関連                              |                                |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチング<br>アシスタント(TA) | 必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。 |
| キーワード                                   | 産業,メンタルヘルス,ストレス                |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 老年心理学特講  |
| 科目番号                   | OATB133  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次   |
| 時間割                    | 秋AB 月7,8   |
| 担当教員                   | 大川 一郎  |
| 授業概要                   | 人間の生涯的発達の中での特に中高年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」そして、これらの知見を踏まえた上で、問題を抱えた高齢者をどのように理解し、どのように対応していったらいいのか」などのテーマについて実習や事例検討も含めて考えていきたい。  |
| 備考                     | OATD302と同一。<br>対面<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法                   | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知の活用力</li> <li>・ マネージメント能力</li> <li>・ コミュニケーション能力</li> <li>・ チームワーク力</li> <li>・ 国際性</li> <li>・ 専門知識</li> <li>・ 倫理観</li> </ul>   |
| 授業の到達目標（学修成果）          | 生涯発達の視点からみた老年期の心理的な特徴について学ぶ。老年期の一般的な心身の変化、日常生活に及ぼす影響について学ぶ。また、様々な高齢者に対する個別の理解、対応のあり方について学ぶ。  |
| 授業計画                   | 生涯発達の視点から見た中—高年期<br>老いるということ1:身体機能の変化<br>老いるということ2:心理的適応<br>知的機能のエイジング1:加齢変化<br>知的機能のエイジング2:機能維持のための方法<br>高齢者に対する心理的理解と援助1:事例・在宅高齢者<br>高齢者に対する心理的理解と援助2:事例・認知症高齢者<br>高齢者理解のために実践例1 個人・家族<br>高齢者理解のための実践例2 福祉・医療<br>高齢者理解のための実践例3 産業他 |
| 履修条件                   | 特になし。  |
| 成績評価方法                 | 授業中の小レポート（50%）、事例に関するレポート（50%）によって判断する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+～Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 講義中に配布された講義資料を用いての復習，第1回講義時に示す関連文献・書籍を用いての予習に取り組むこと。<br>その他，必要に応じて講義中に示す。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 授業の内容に応じたレジュメ、資料等を適宜配布する。参考書等は、授業時、適宜、紹介する。  |
| オフィスアワー等（連             | 担当教員の連絡先は以下のとおり。   |

|                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 絡先含む)                           | 訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。        |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 特になし。                          |
| 他の授業科目との関連                      | OATD301 生涯発達臨床心理学I             |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。 |
| キーワード                           | 生涯発達、臨床心理学、高齢者、老年心理学           |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | キャリアカウンセリング特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開X)  |
| 科目番号                   | OATB134  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次   |
| 時間割                    | 秋AB 土4,5   |
| 担当教員                   | 岡田 昌毅  |
| 授業概要                   | キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。   |
| 備考                     | OATD308と同一。<br>対面  |
| 授業方法                   | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知の活用力</li> <li>・ マネージメント能力</li> <li>・ コミュニケーション能力</li> <li>・ チームワーク力</li> <li>・ 専門知識</li> <li>・ 倫理観</li> </ul>  |
| 授業の到達目標(学修成果)          | キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが求められる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。  |
| 授業計画                   | <p>【初回授業日について】</p> <p>初回授業日は、10月第2土曜日となりますので、ご注意ください。</p> <p>オリエンテーション、キャリア関連諸理論・アプローチの概説<br/>         キャリア・インタビュー準備、キャリア・インタビュー(その1)<br/>         キャリア・インタビュー(その2)および整理<br/>         職業選択と適性<br/>         キャリア発達論<br/>         働く動機<br/>         組織内キャリア発達<br/>         社会的学習理論・意思決定論<br/>         トランジション論<br/>         総合討議</p> |
| 履修条件                   | 特になし。  |
| 成績評価方法                 | 担当課題に関するグループ発表(80%)、授業コメント(20%)にて評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+~Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 講義中に配布された講義資料を用いての復習, 第1回講義時に示す参考図書・関連文献を用いての予習に取り組むこと。<br>その他, 必要に応じて講義中に示す。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。  |
| オフィスアワー等(連             | 担当教員の連絡先は以下のとおり。   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 絡先含む)                           | 訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。<br>okada at human.tsukuba.ac.jp<br>okada@human.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 特になし。  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。   |
| キーワード                           | キャリア理論、生涯発達心理学、実践への応用  |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 非行・犯罪心理学特講(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)  |
| 科目番号                   | OATB135  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1・2 年次   |
| 時間割                    | 秋AB 火7,8   |
| 担当教員                   | 原田 隆之  |
| 授業概要                   | 非行・犯罪について、心理学的な観点から、社会的な不適応行動としてとらえ、その要因を生物学的、心理学的、社会的観点から多面的にとらえるとともに、非行・犯罪のアセスメント、治療方法について実践的に解説する。  |
| 備考                     | OATD311と同一。<br>対面<br>オンライン(同時双方向型)   |
| 授業方法                   | 講義   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知の活用力</li> <li>・ マネージメント能力</li> <li>・ コミュニケーション能力</li> <li>・ 国際性</li> <li>・ 専門知識</li> <li>・ 倫理観</li> </ul>  |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 非行・犯罪のリスク要因に対する理解を深めるとともに、リスクアセスメント、およびリスクに焦点を当てた治療方法を学ぶ。  |
| 授業計画                   | <p>講義と履修生による課題発表によって授業を進める。</p> <p>履修生は教科書を分担し、その内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。授業ではその発表を元に討論する。</p> <p>犯罪・非行の概念と法的枠組み</p> <p>犯罪非行理論</p> <p>犯罪・非行心理学の基礎</p> <p>犯罪・非行のリスク要因</p> <p>各種犯罪(薬物犯罪)</p> <p>各種犯罪(性犯罪)</p> <p>犯罪・非行のアセスメント</p> <p>犯罪・非行の治療</p> <p>主な治療技法(動機づけ面接法)</p> <p>主な治療技法(リラプス・プリベンション)</p> |
| 履修条件                   | 特になし。  |
| 成績評価方法                 | 期末試験(70%)、レポート(30%)に基づいて評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+~Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 講義中に配布された講義資料を用いての復習、第1回講義時に示す関連文献・書籍を用いての予習に取り組むこと。<br>その他、必要に応じて講義中に示す。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          |  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)        | <p>担当教員の連絡先は以下のとおり。</p> <p>訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。</p> <p>tkharada at human.tsukuba.ac.jp</p>  |

|                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 特になし。                          |
| 他の授業科目との関連                      |                                |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） | 必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。 |
| キーワード                           | 犯罪，非行，アセスメント                   |



|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 臨床心理家族・地域援助特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理   |
| 科目番号               | OATB141   |
| 単位数                | 2.0 単位  |
| 標準履修年次             | 1・2 年次  |
| 時間割                | 秋AB 金3,4  |
| 担当教員               | 杉江 征, 田附 あえか  |
| 授業概要               | 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、および地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学び、演習等を通して心理臨床実践に活かす。   |
| 備考                 | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法               | 講義  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用コンピテンス <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 知の活用力 3. コミュニケーション能力</li> </ul> </li> <li>・専門コンピテンス <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学的問題発見と人間理解力、2. 心理学的問題解決力、3. 心理学的情報発信力、4. 多領域間コミュニケーション力</li> </ul> </li> </ul>  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 家族・集団・地域の諸問題についての基礎的知識および心理的援助法を身につける。  |
| 授業計画               | <p>第1回 オリエンテーション：家族とは・家族の健康さとは(対面型)<br/>家族発達理論(1) 家族の準備期(オンデマンド型)</p> <p>第2回 家族発達理論(2) 子育て期～巣立ちの時期(オンデマンド型)</p> <p>第3回 家族心理学の基礎理論：家族システム論(オンデマンド型)<br/>家族臨床の基礎理論：事例から見る家族臨床の基礎概念(オンデマンド型)</p> <p>第4回 家族臨床に必要なスキル(1)：家族臨床の技法(オンデマンド型/対面型)</p> <p>第5回 家族臨床に必要なスキル(2)：家族面接におけるアセスメント(オンデマンド型/対面型)<br/>家族支援の実際(1) 教育領域における家族支援の実際(オンデマンド型)</p> <p>第6回 家族支援の実際(2) 児童福祉領域における家族支援の実際(対面型)</p> <p>第7回 大学コミュニティにおける心理支援(対面型)</p> <p>第8回 地域・ボランティア団体における心理支援(対面型)</p> <p>第9回 産業・組織領域における心理支援(対面型)</p> <p>第10回 各領域における心理支援プランの立案(対面型)</p> <p>*前半(第1回～第6回)と後半(第7回～第10回)の実施順序が逆になる場合があります。確定次第ご案内させていただきます。</p> |
| 履修条件               | 受講は心理臨床コースの学生に限る  |
| 成績評価方法             | 課題への取り組み《各テーマに関する理解度を評価》(70%)、授業への主体的なかかわり方《各回のコメント・振り返り等を評価》(30%)をもとに全体的な評価を行う。全体の   |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 成績評価方法                          | 60%が合格の基準。なお、A+～Cの評点は全体合計に基づいて行う。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 講義（50%）、演習（50%）。授業外においては、授業で扱うテーマ等について以下のような自主学習を求める。現代社会において心理臨床的援助を实践する上で、個人の心理内界や言動のみならず、家族・集団・地域をはじめとする環境への関心および関係性への着目は不可欠である。日常生活の中での自分と環境の関係性について考え、自己に対する理解を豊かにして欲しい。本授業は2単位のため、授業時間と予習復習などの授業外学修を含めて90時間の学修時間を求める。 |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 1. 中釜洋子，野末武義，布柴靖枝，無藤清子（編）『家族心理学 第2版』 有斐閣ブックス，2019<br>参考文献<br>平木典子・中釜洋子・友田尋子編著『親密な人間関係のための臨床心理学 家族とつながり，愛し，ケアする力』金子書房，2011 他，その都度指示していく  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | メールによる問い合わせ<br>杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 主体的に参加し，講義や実習を通して，参加者と共に学ぶ姿勢を大事にして欲しい。  |
| 他の授業科目との関連                      |   |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |   |
| キーワード                           | 家族、集団、地域社会、家族療法、コミュニティ支援、関係性、システム、エンパワメント   |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 授業科目名                  | 心理実践実習IA   |
| 科目番号                   | OATB142  |
| 単位数                    | 2.0 単位   |
| 標準履修年次                 | 1 年次   |
| 時間割                    | 通年 随時  |
| 担当教員                   | 濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田 目光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理  |
| 授業概要                   | 年間を通じて行われる心理相談室及び子ども相談室の運営・管理業務実習、電話受付実習、インテーク実習(陪席)・各ケースの支援実習を通して、心理支援の基礎を学ぶ。随時グループ・スーパービジョンや個別スーパービジョンを通して、臨床支援原則の理解、地域連携の実際について学ぶ。  |
| 備考                     | 対面(オンライン併用型)   |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力  |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 各相談室の個別ケースを通して心理支援の基礎を学び, 基本的な支援技術を身につける。  |
| 授業計画                   | 相談室運営や管理業務, 電話受付を通して, 多職種連携や地域支援, 公認心理師としての職業倫理と法的義務について学ぶ。インテーク面接の実施やその陪席, 遊戯面接について実習する。面接前の事前指導および, 面接後の事後指導により, 心理支援を要する者への知識及び技能を習得し, ニーズの把握及び支援計画について学ぶ。<br>第1回: 相談室運営の概要<br>第2回: 相談室の管理業務<br>第3回: 心理職の職業倫理<br>第4回: 情報管理・守秘義務<br>第5回: インテーク面接の概要<br>第6回: インテーク面接の陪席<br>第7回: インテーク面接の発表・カンファレンス実習<br>第8回: 遊戯面接の概要<br>第9回: 遊戯面接の陪席<br>第10回: 遊戯面接の発表・カンファレンス実習 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る  |
| 成績評価方法                 | 相談室における活動 40%<br>カンファレンスでの発表 30%<br>カンファレンスでの討論 30%  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。<br>以上について, 1単位の授業科目は, 45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。   |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 特に定めない   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)        |  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         |  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 相談業務，管理業務，相談室運営，多職種連携，地域支援，インターク面接，遊戯面接，観察，陪席，実習 |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 心理実践実習IB  |
| 科目番号                   | OATB143   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 1 年次  |
| 時間割                    | 通年 随時   |
| 担当教員                   | 菅原 大地, 杉江 征, 濱口 佳和, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 生田 目光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理   |
| 授業概要                   | 医療機関等外部実習先の心理面接や心理検査実習、その他の実習、そして実習後のスーパービジョンを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶとともに、多職種との連携を実践的に学ぶ。その他相談機関の見学等実習を通して、心理援助職の役割や責務、支援原則など幅広い臨床実践について学ぶ。  |
| 備考                     | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 導入面接, 検査実施, 報告書作成をスーパービジョンを受けながら行い, クライアント情報を基に見立てる力を身につける。<br>多職種との連携を学び, チームでの支援をできるようになる。  |
| 授業計画                   | 医療・福祉・教育・司法・矯正機関での実習を行う。実習を通して, 心理支援を要する者への知識及び技能を習得し, 心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画, 支援を要するものへのチームアプローチ, 多職種連携と地域支援, 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。<br>第1回: 医療領域における実習の事前学習<br>第2回: 医療領域における検査実習<br>第3回: 医療領域における検査報告書作成<br>第4回: 医療領域における実習の事前・事後学習<br>第5回: 福祉領域における実習<br>第6回: 福祉領域における実習の事前・事後学習<br>第7回: 教育領域における実習<br>第8回: 教育領域における実習の事前・事後学習<br>第9回: 司法・矯正領域における実習<br>第10回: 司法・矯正領域における実習の事前・事後学習 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る   |
| 成績評価方法                 | 実習施設における活動 40%<br>カンファレンスでの発表 30%<br>カンファレンスでの討論 30%  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。<br>以上について, 1単位の授業科目は, 45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 特に定めない  |
| オフィスアワー等(連             |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 絡先含む)                           |  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 積極的に参加し, 質問すること                                  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 多職種連携, 医療, 福祉, 司法・矯正, チームアプローチ, 地域支援, 職業倫理, 法的義務 |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 心理実践実習IIA   |
| 科目番号                   | OATB144   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 2 年次  |
| 時間割                    | 通年 随時   |
| 担当教員                   | 濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田 目光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理   |
| 授業概要                   | 年間通じて行われる学内の心理相談室及び子ども相談室における個別ケースを担当する。心理相談室では主に青年・成人を対象とした面接実習を行い、子ども相談室では、子どもへの心理実践としては、プレイセラピー、行動療法、社会・情緒的教育の担当、行動観察、保護者面接陪席が、保護者には育児相談を行う。実習後に行われるグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して、心理支援の基礎・実践についての理解を深める。              |
| 備考                     | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 各相談室の個別ケースを通して心理支援の基礎を学び、基本的な支援方法を身につける。  |
| 授業計画                   | 相談室運営や管理業務, 電話受付を通して, 多職種連携や地域支援, 公認心理師としての職業倫理と法的義務について学ぶ。<br>第1回: 相談室運営<br>第2回: 相談室管理業務<br>第3回: 電話対応<br>第4回: 多職種連携と地域支援<br>第5回: 職業倫理<br>第6回: ケースの見立て<br>第7回: ケースの方針検討<br>第8回: ケースの担当<br>第9回: 面接後の振り返り<br>第10回: ケースの発表 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る   |
| 成績評価方法                 | 相談室での活動 40%<br>カンファレンスでの発表 30%<br>カンファレンスでの討論 30%   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。<br>以上について, 1単位の授業科目は, 45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 特に定めない  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)        |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | 積極的に参加し，質問すること                           |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） |  |
| キーワード                           | 相談室運営，管理業務，電話受付，多職種連携，地域支援，職業倫理，法的義務，ケース |



|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 心理実践実習IIB   |
| 科目番号                   | OATB145   |
| 単位数                    | 2.0 単位  |
| 標準履修年次                 | 2 年次  |
| 時間割                    | 通年 随時   |
| 担当教員                   | 菅原 大地, 杉江 征, 濱口 佳和, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 生田目 光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理   |
| 授業概要                   | 医療相談機関等による実習を通して以下を学ぶ。1クライアント情報を基に見立て、導入面接、検査実施、報告書作成をスーパービジョンを受けながら行う。2受診陪席やデイケア実習などを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶ。3多職種連携の実際を学ぶ。  |
| 備考                     | 対面(オンライン併用型)  |
| 授業方法                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 1.汎用コンピテンス<br>知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力<br>2.専門コンピテンス<br>心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力   |
| 授業の到達目標(学修成果)          | 導入面接, 検査実施, 報告書作成をスーパービジョンを受けながら行い, クライアント情報を基に見立てる力を身につける。<br>受診やカンファレンス陪席やその他の病院実習を通して、個別ケースの支援の実際を学び、多職種との連携しながら支援する方法を身につける。  |
| 授業計画                   | 保健医療分野での実習を行う。実習を通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得し、心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、多職種連携と地域支援、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。<br>第1回：心理検査の事前学習<br>第2回：導入面接<br>第3回：心理検査の実施<br>第4回：報告書の作成<br>第5回：報告書の発表<br>第6回：報告書に基づいた見立ての検討<br>第7回：報告書の修正・提出<br>第8回：カンファレンス実習の事前学習<br>第9回：カンファレンス実習の参加<br>第10回：カンファレンス実習の事後学習 |
| 履修条件                   | 履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る   |
| 成績評価方法                 | 実習施設における活動 40%<br>カンファレンスでの発表 30%<br>カンファレンスでの討論 30%  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。<br>以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 特に定めない  |
| オフィスアワー等(連             |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 絡先含む)                           |  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | 積極的に参加し, 質問すること  |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | 心理検査, 導入面接, 所見作成, カンファレンス, チームアプローチ, 多職種支援, 職業倫理, 法的義務 |